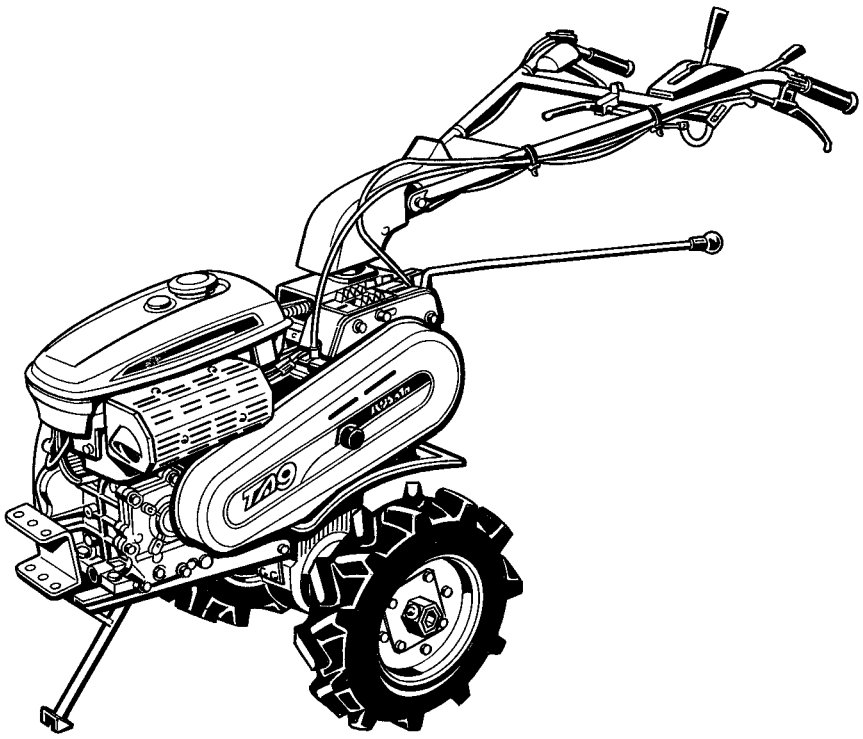
クボタ管理機

取扱説明書

TA 7・10 9・12



J-2785

安全宣言
安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解していただき誤操作のないようご注意ください。

ガソリン給油

ギヤーオイル給油

チョークレバー

燃料ゲージ **“下限”**

燃料ゲージ **“上限”**

専門用語の説明

ON …… スイッチの **“入”** 運転

OFF …… スイッチの **“切”** 停止

PTO …… 動力取出軸

N …… 変速位置 **“中立”**

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，農業機械であり，農作業以外では使ってはいけません。
夜間作業はしないでください。

目　次

⚠安全に作業するために …… ⚠-1

サービスと保証について …… 1

1. もうおぼえられましたか？ ● 各部の名称と装置の取扱い

各部の名称と装置の取扱い …… 2

2. 作業前にこれだけチェック ● 作業前の点検について

作業前の点検について …… 4
- ●調子良く作業するために …… 4
- ●安全に作業するために …… 6

3. このように運転します ● 上手な運転のしかた

ならし運転(最初の10時間程度使用まで)…… 8
エンジンの始動のしかた …… 8
停止のしかた …… 10
発進のしかた …… 10
ハンドル高さの調節 …… 11
ハンドルの左右回動 …… 12
ハンドルの逆向き …… 12
ハンドルの固定 …… 13
車輪間隔調節と車輪交換 …… 13
ロータリの着脱のしかた
【アタッチメント採用】…… 14
作業機用バッテリ充電のしかた …… 15

4. こんなときどうする？ ● 管理機の簡単な手入れと処置

エンジンオイルの交換 …… 16
ミッションオイルの交換 …… 16
エアークリーナエレメントの清掃とオイル交換 17
燃料パイプの交換 …… 17
燃料フィルタの清掃 …… 17
点火プラグの調整・清掃・交換 …… 18
主クラッチケーブルの調節 …… 18
新しいベルトに交換する場合 …… 19
操向クラッチケーブルの調節 …… 19
タイヤの空気圧 …… 19
ハンドル回動時のあそび調節と固定 …20
ブレーキの調節 …… 20
バッテリ【E仕様】…… 20
洗車時の注意 …… 21
専用充電器の使用方法【オプション部品】 …22
電気配線及びヒューズ【E仕様】 …… 24
ロータリ後進ケンセイ装置の調節 …… 24

5. 作業が終ったら

使用後の手入れ …… 25
エンジン始動不良を防ぐために …… 25
保管 …… 25
燃料の抜取り …… 25

6. 管理機を運搬するとき

自動車(トラック)への積込み，運搬 …26

7. 付　記 ● 主要諸元・走行速度・車軸回転数一覧表・標準付属品・主な消耗部品一覧表

主要諸元 …… 27
走行速度・車軸回転数一覧表 …… 27
標準付属品 …… 28
主な消耗部品一覧表 …… 28
オプション部品 …… 29

8. トラブルと処置

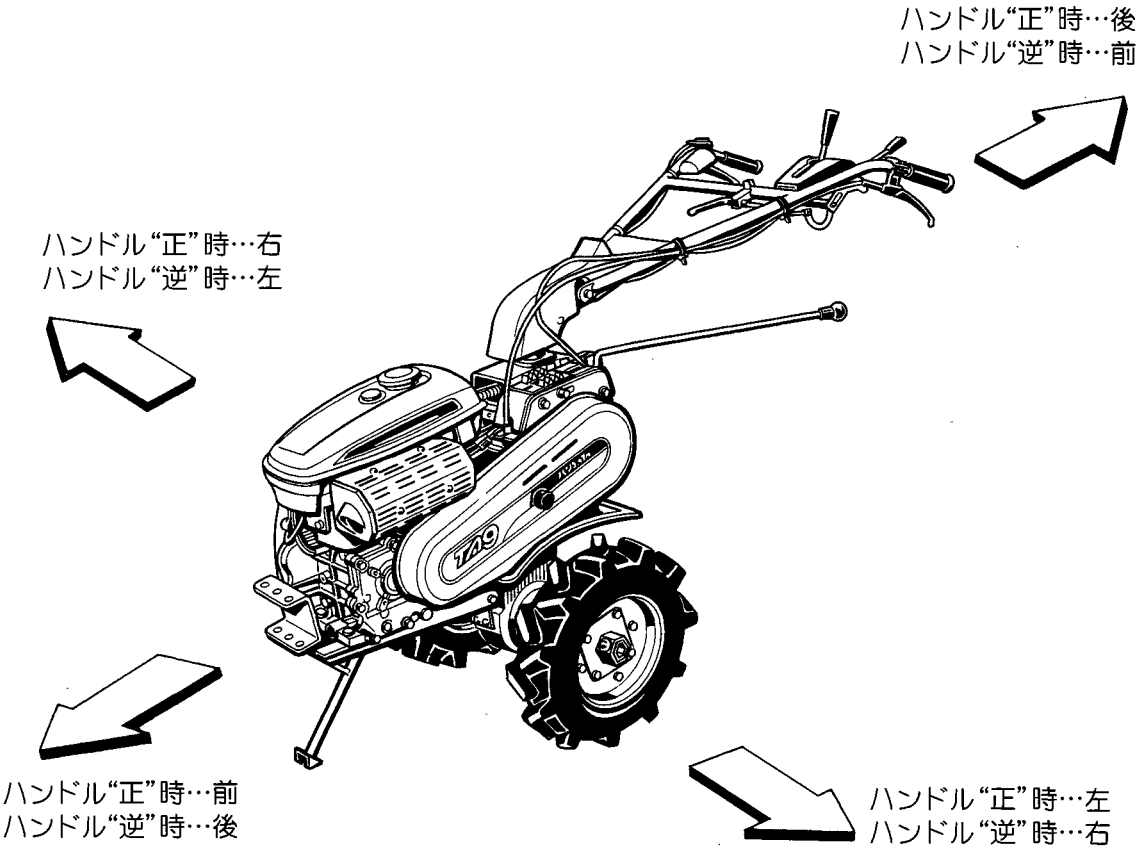
エンジンが始動しないとき …… 29
エンジンの回転が上がらない，不安定，
出力が不足する …… 29
エンジンが振れる，異音が発生する …29
ハンドルのガタが多い …… 29

⚠ 安全に作業するために

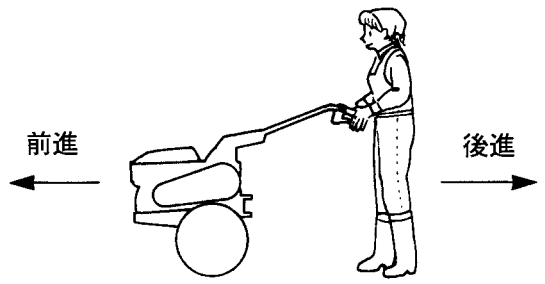
必ず読んで
ください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

またこの取扱説明書で使用している〈前後・左右・ハンドル正・ハンドル逆〉などの《用語》は図示のように決めております。



J-2785

ハンドル正	ハンドル逆
 J-2709	J-2710

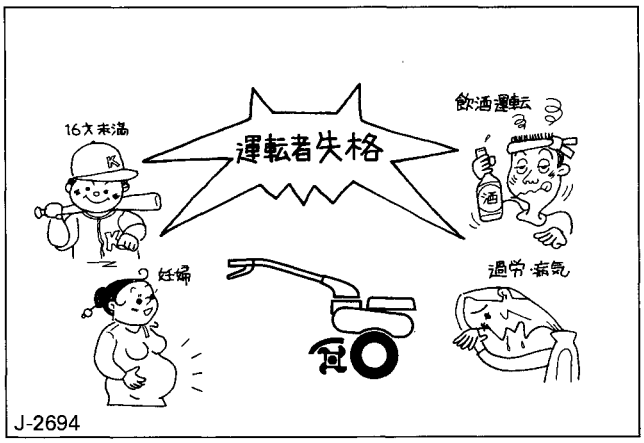
⚠ 安全に作業するために

1．運転する前に

■使用する人は

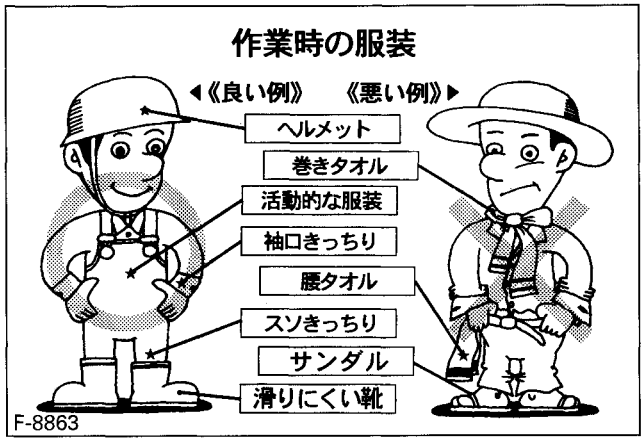
機械の運転操作，特に主クラッチ**“切”**はすばやくできるよう，よく練習し，十分に慣れてから作業してください。
次の項目に該当する場合は，機械を使用しないでください。

＊本書及びラベルの内容が理解できない人
＊視力不足等のため表示内容が読めない人
＊飲酒時や体調が悪いとき，また妊娠中の人
＊16才未満の人
＊ハンドルを操縦する体力に自信のない方



■使用する人の服装は

＊回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になる，だぶついた服，腰タオルなどはやめてください。
＊ヘルメット，安全靴，保護メガネや手袋などを必要により着用してください。

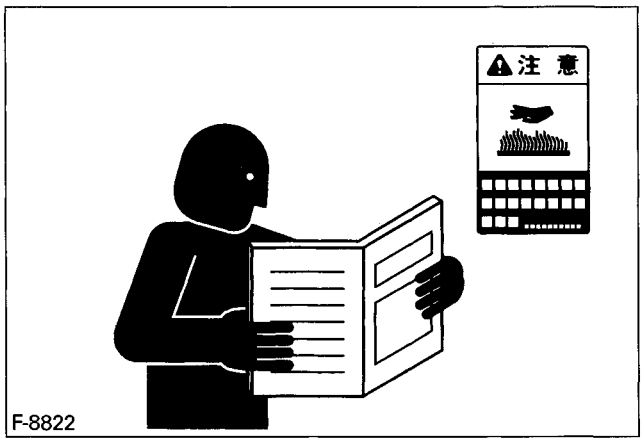


■周囲への注意

＊子供，ペットを近づけないでください。
＊見物人を近くに寄せないでください。
＊共同作業者がいるときは，互いに注意してください。

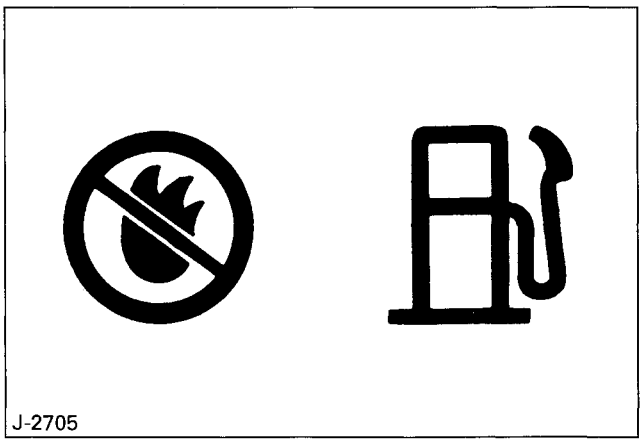
■他人に貸すときは

＊事前に運転のしかたを教え，**“取扱説明書”**を必ず読んでもらってください。



■給油・注油するとき【火気厳禁】

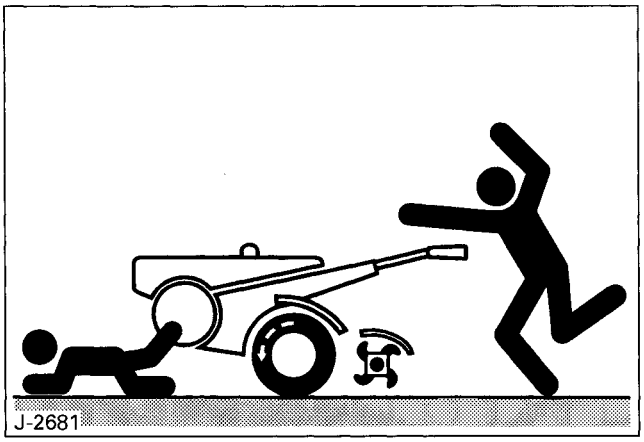
＊燃料の給油・各部への注油時は必ずエンジンを停止し，規定量以上入れないでください。
＊エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災のおそれがあるので給油はしないでください。
＊煙草を吸ったり火気を近づけないでください。
＊こぼれた燃料はふき取ってください。



2．始動するとき

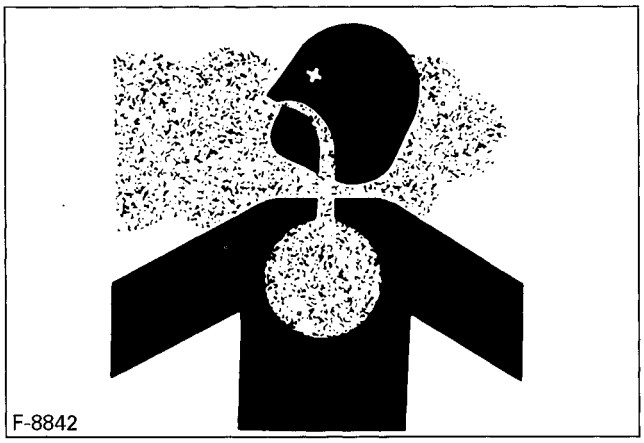
■エンジンを回すとき

＊必ず本機，ロータリ(作業機)の主クラッチレバーを**“切”**変速レバーは**“中立”**にして，付近に人(特に子供)を近づけないでください。
＊もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になるおそれがあります。


J-2681

■排気ガスに注意

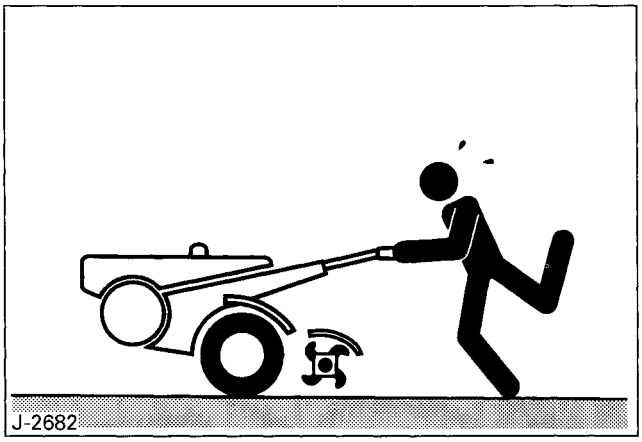
排気ガスによる一酸化炭素中毒のおそれがあるので，換気の悪い所(ハウス，車庫等)では使用しないでください。


F-8842

3．移動，作業するとき

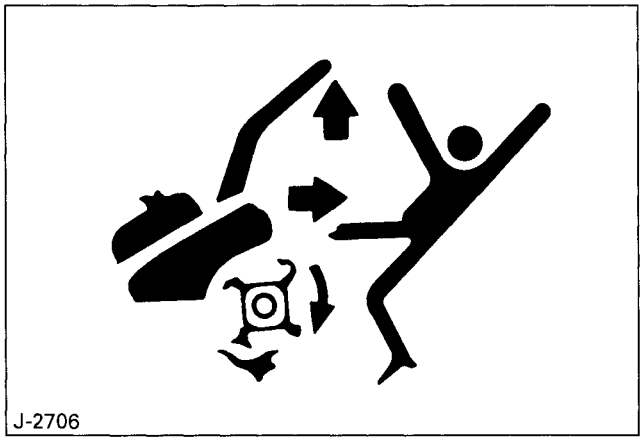
■発進するとき

＊車速の最低速で主クラッチレバーの**“入”**はゆっくり、**“切”**はすばやくの操作を習熟した上で使用してください。
＊小走りになるようなスピードを出したり，急発進，急旋回はしないでください。


J-2682

■ロータ装着時後進は禁止

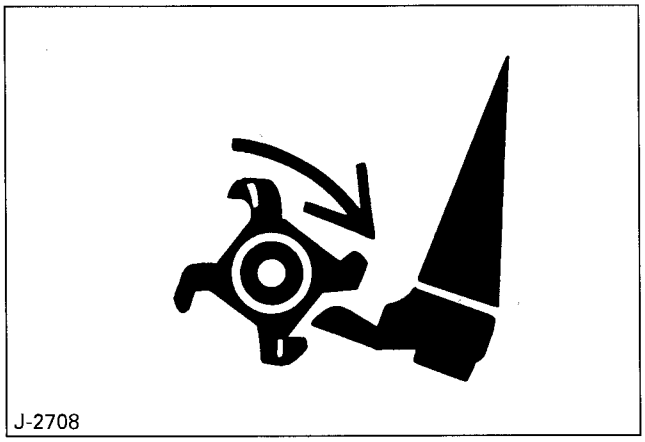
＊ハンドルが跳上がり回転する爪に巻込まれるおそれがあるので**“後進”**に変速しないでください。


J-2706

⚠ 安全に作業するために

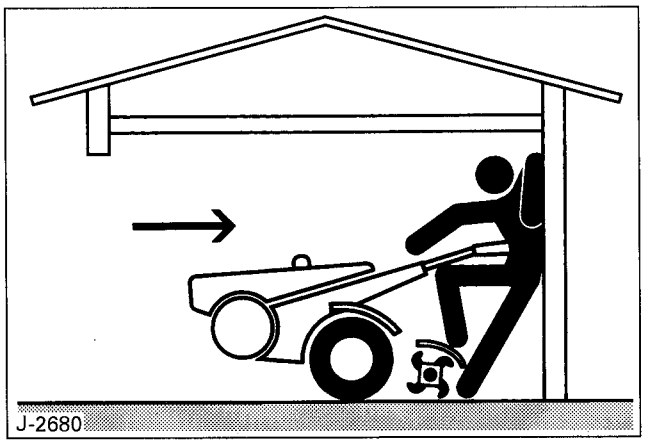
■移動するとき

＊移動の際は，必ずロータリの回転を止めてください。



■ハウス，車庫等での移動

＊後方の壁，支柱，天井など障害物にはさまれるおそれがあるので遅い車速で後進してください。

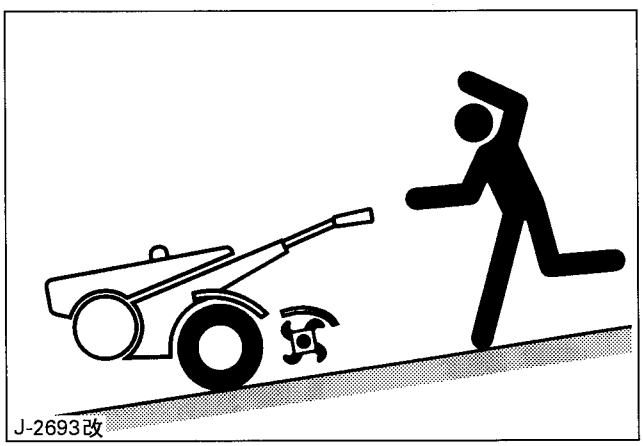


■坂道を移動するとき

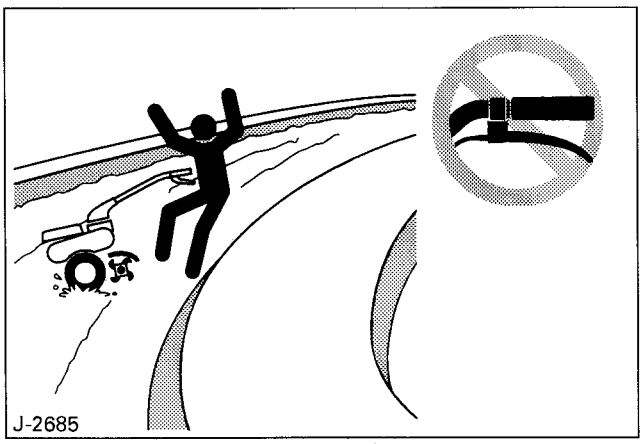
＊坂道，ほ場の出入り，畦の乗越え等の途中で主クラッチを**“切”**ったり，変速を**“中立”**にすると，機体が思わぬ方向に進み危険です。

＊変速操作は，平坦な場所以外では行なわないでください。

＊坂道や凹凸，カーブの多い路上で高速運転すると，転倒したりして危険ですから必ず低速運転してください。



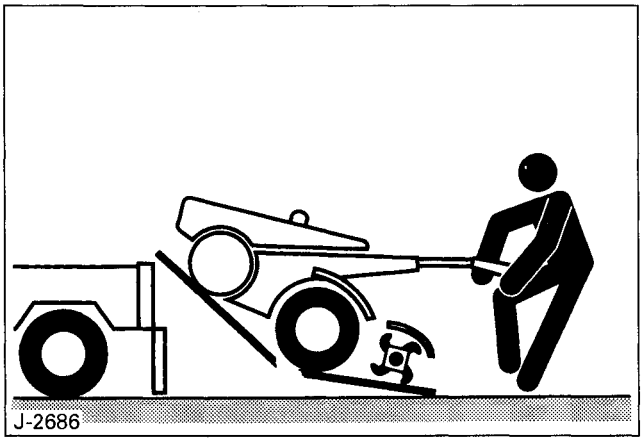
＊坂道で操向クラッチを操作すると，思わぬ方向に曲がり転倒のおそれがありますので，必ずハンドル操作で方向転換してください。



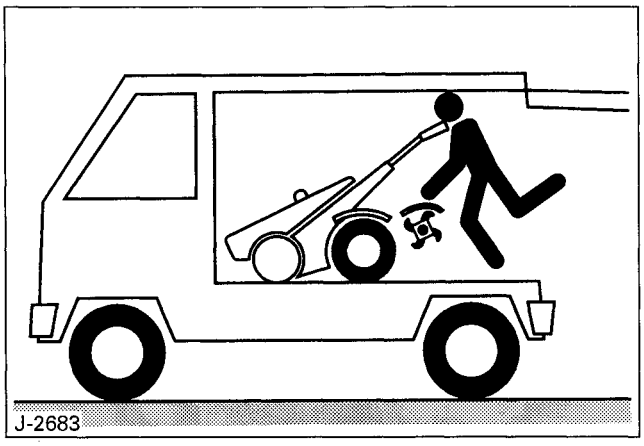
■積降ろしするとき

＊アユミ板は丈夫ですべり止めのあるものを使用し，確実に固定してください。

＊足元に注意し，車速は最低速で，上りは**“前進”**下りは**“後進”**で行ない，途中で主クラッチや，操向クラッチを切ったり，変速操作をしないでください。


J-2686

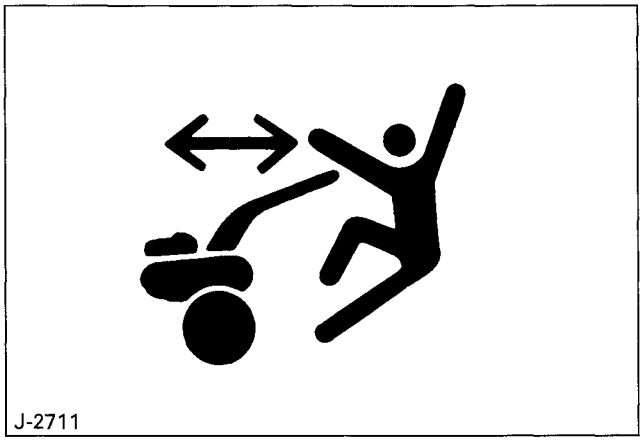
＊車などで運搬するときは，必ず荷台に天井がない車を使用してください。


J-2683

■耕うん作業するとき

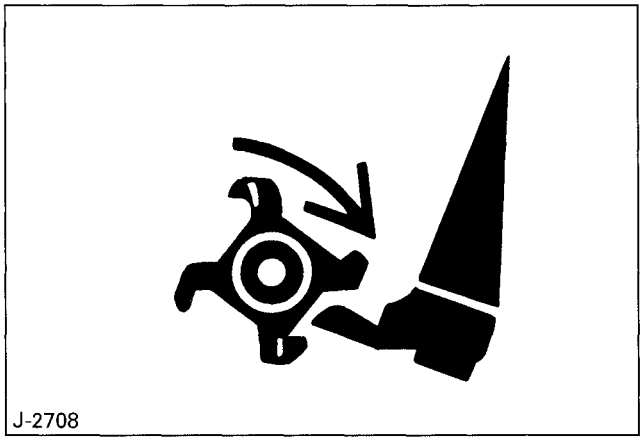
＊車軸（ロータ），爪軸（ロータリ）作業開始時や作業中，機体が思わぬ方向に飛出し転倒や人身事故のおそれがありますので，いつでも主クラッチが**“切”**れる姿勢で運転してください。

＊作業前に，ほ場の状態をよく確認して，石・材木・針金・空カン・空ビン等を取除いてください。


J-2711

■回転している爪に注意

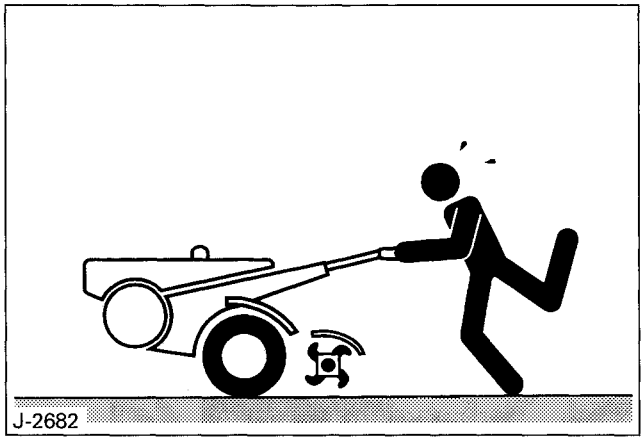
＊ハンドル部を持上げ旋回するとき，足元及び周囲に十分注意しないと回転する爪に巻込まれるおそれがあります。


J-2708

⚠ 安全に作業するために

■ほ場が硬いとき

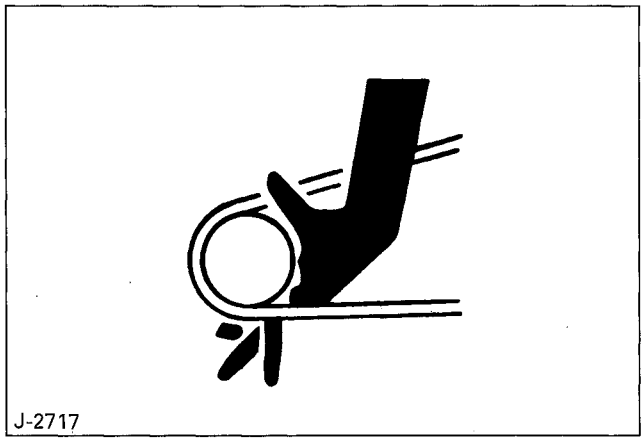
＊硬いほ場では車速を遅いめにして、耕深も浅いめで作業を行なってください。



■PTO軸を使用するとき

＊回転物に巻込まれるおそれがあるので，まわりにカバーや囲いをしてください。

＊使用しないときはカバーを組付けてください。

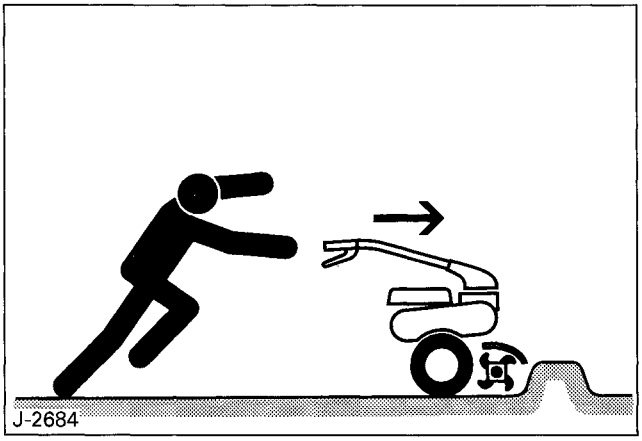


■ハンドル回動するとき

◆操向クラッチワイヤの切替

＊ハンドル位置を正（逆）から逆（正）に変更すると，操向クラッチの方向が左右入替わり思わぬ方向に旋回して危険です。

＊必ず操向クラッチ切替グリップを切替えてください。

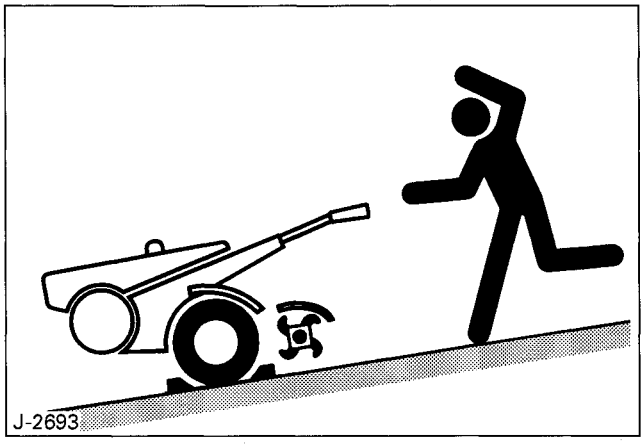


◆後進ケンセイボルトの切替

＊高速で後進すると機体が運転者に衝突し危険なため，ハンドル位置を変えたときは必ずケンセイボルトの位置を切替えてください。

■機械から離れるとき

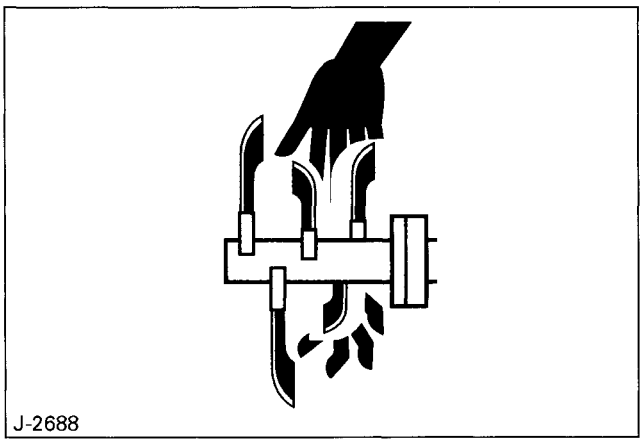
＊エンジンは必ず停止させ，駐車ブレーキをかけて平坦で安定した場所に駐車します。やむなく傾斜地に止めるときは車止めをしてください。


J-2693

4．作業が終わったとき

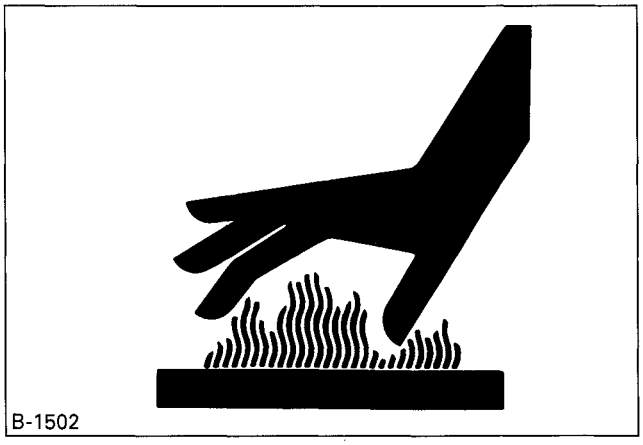
■掃除をするとき

＊車軸（ロータ）爪軸（ロータリ）等に巻付いた草，ワラ，泥土等を取除くときは，巻込まれるおそれがあるので，必ずエンジンを停止してください。


J-2688

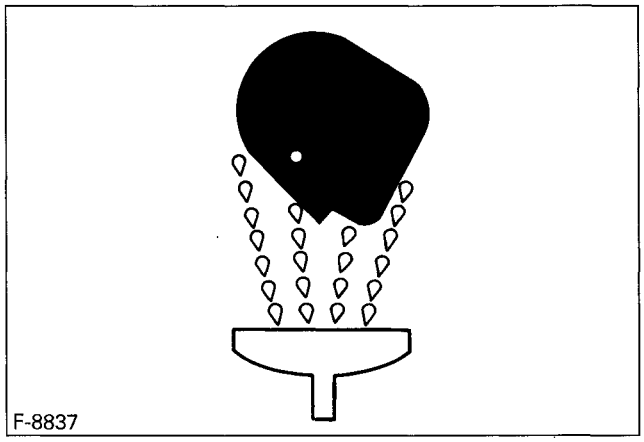
5．点検，整備をするとき

＊点検，整備，アタッチメントの脱着などは，機械が転倒しない平坦な所にスタンドを立てエンジンを止め，高温部が冷めてから行なってください。


B-1502

■バッテリ点検するとき

＊バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


F-8837

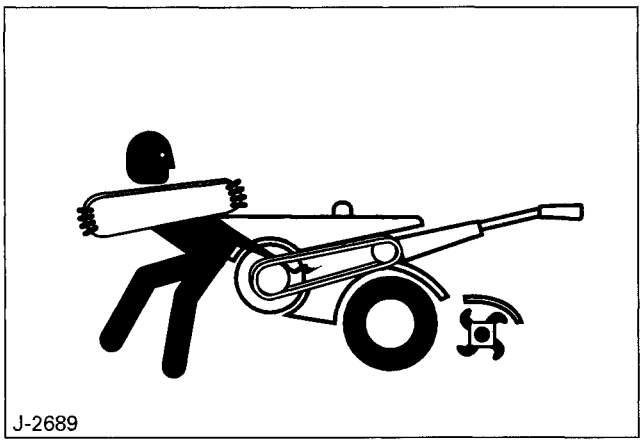
＊バッテリは引火性ガスを発生し，爆発のおそれがあるので，タバコを吸ったり火気を近づけないでください。

F-8836

⚠ 安全に作業するために

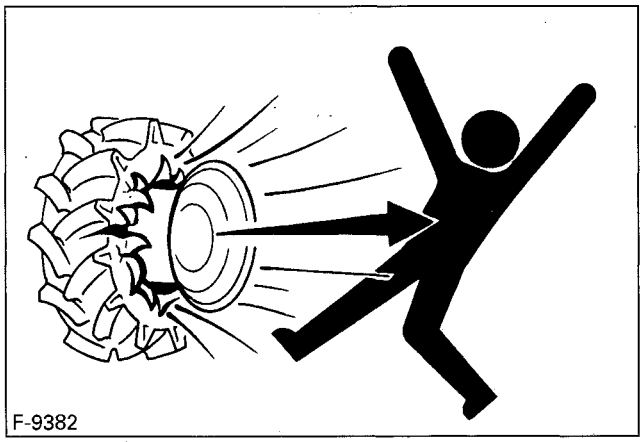
■カバー類は必ずつける

＊ベルトカバー，PTO軸カバーなどの防護カバーを取外すときは，巻込まれるおそれがあるので，必ずエンジンを停止してください。
＊取外したカバー類は元通り組付けてください。


J-2689

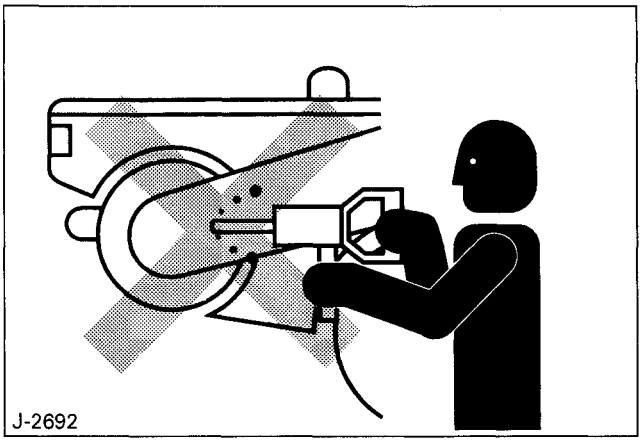
■タイヤの整備

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。
＊空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引き起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）


F-9382

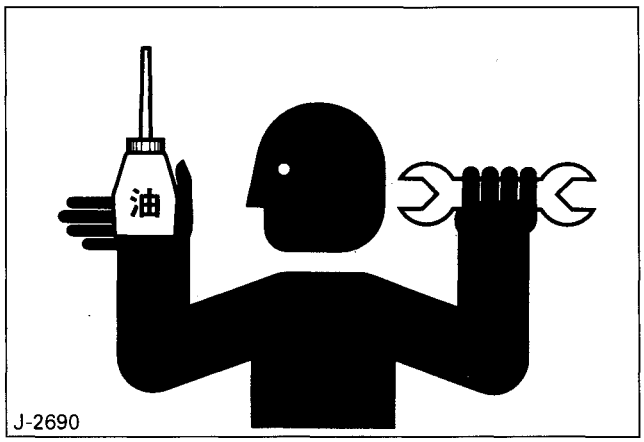
■機械の改造禁止

＊機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながるおそれがあります。


J-2692

■１年毎の定期点検を

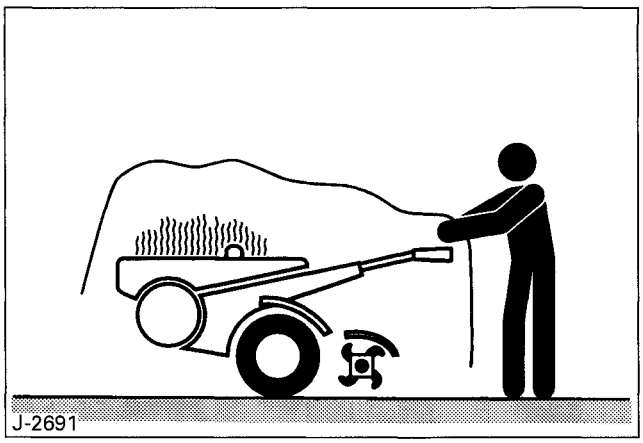
＊機械の整備不良による傷害事故などを未然に防止するため，１年毎に定期点検・整備を受け，特に燃料パイプは，２年毎に交換して安全に作業できるようにしてください。



J-2690

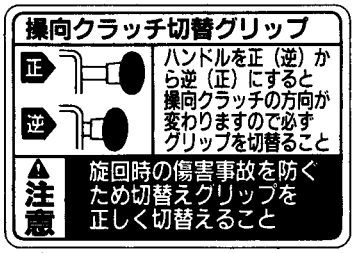
■格納するとき

＊機体に保管用カバーをかけるときは，火災予防のため高温部が冷めてから行なってください。

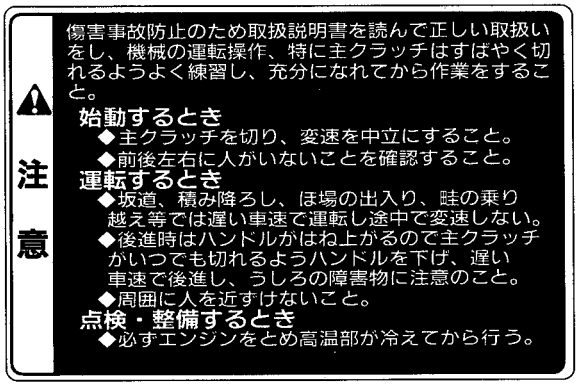

J-2691

6．⚠表示ラベルと貼付位置

①品番　62901-4819-1

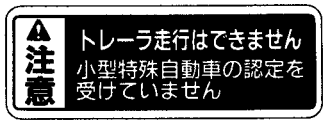


②品番　60932-4822-2



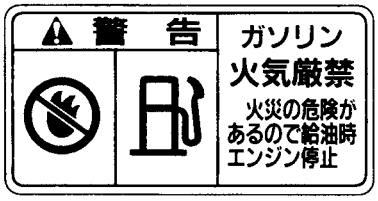
③品番　60802-4828-1

④品番　60932-4828-1

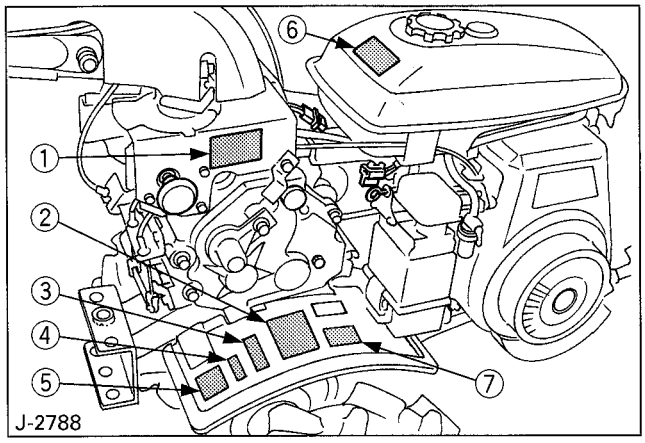


⑤品番　61592-4833-1

⑥品番　60932-4821-1

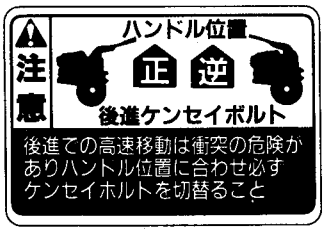


⑦品番　61592-4812-1

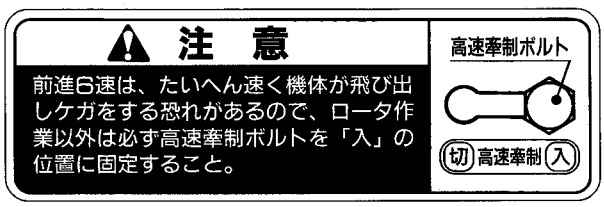


⚠ 安全に作業するために　必ず読んでください。

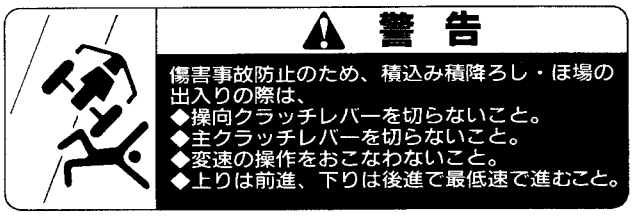
①品番　62901-4818-2



②品番　KK121-4732-2

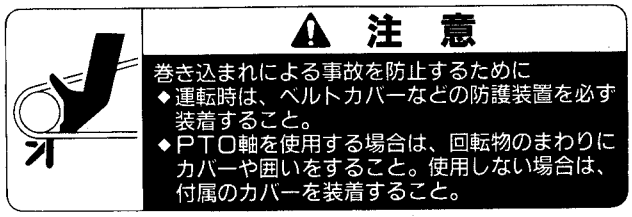


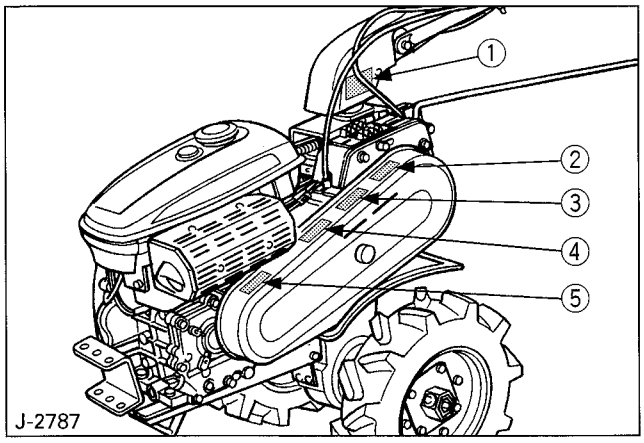
③品番　64071-4841-1



④品番　60932-4825-1

⑤品番　KK221-4750-1



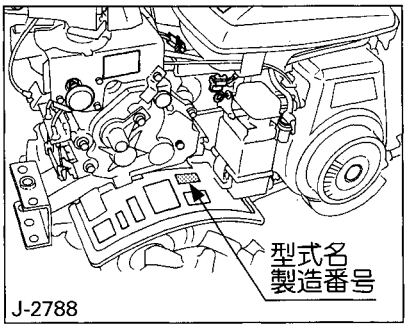


7．⚠表示ラベルの手入れ

⑴ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
⑵高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
⑶破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
⑷新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
⑸ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

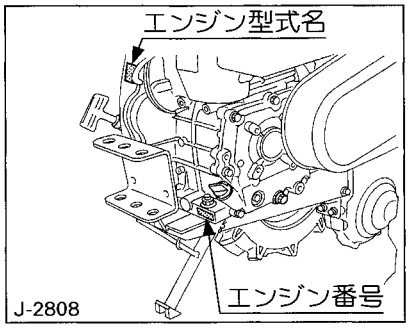


■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先に，それぞれ**"ご相談窓口"**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際　(1)型式名と製造番号
　　(2)エンジン型式名とエンジン番号
を併せてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。



警　告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

注　意

＊トレーラ走行はできません。
小型特殊自動車の認定を受けておりません。
一般公道を走行すると，道路運送車両法に違反します。
一般公道を移動するときは，自動車(トラック)に積んで運搬してください。

◆安全鑑定適合番号
クボタTA7 …… 22068
クボタTA9 …… 22069
クボタTA10 …… 22070
クボタTA12 …… 22071

1. もうおぼえられましたか？ ● 各部の名称と装置の取扱い

主クラッチレバー
フィンガクラッチレバー

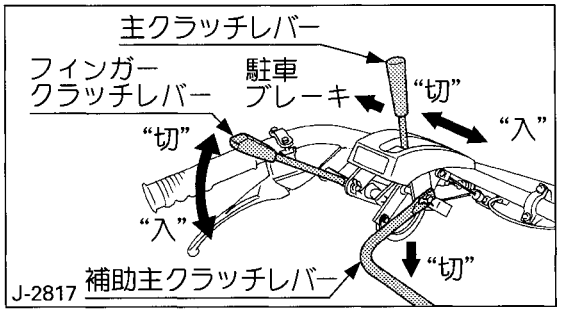
注 意

＊主クラッチの接続はゆっくり行なってください。

●主クラッチレバーとフィンガクラッチレバーは連動していますので，どちらでもクラッチ操作ができます。

補助主クラッチレバー

●下に押すと主クラッチが切れます。最後まで確実に押してください。



ハンドル回動レバー

注 意

＊スタンドを立ててから行なってください。

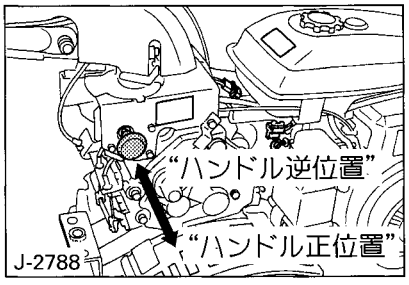
●レバーを持上げるとハンドルが左右及び逆向きに回動できます。

操向クラッチ切替えグリップ

注 意

＊切換え後，確実に作動するか確認してください。

●ハンドル位置を変えるとき同時に切換えます。

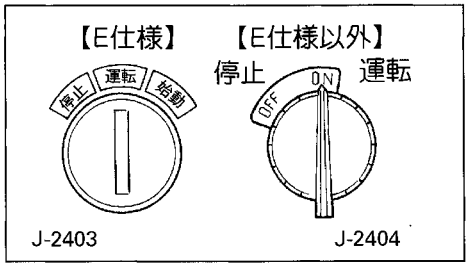


6角ホイールチューブ

●輪距が変えられます。

エンジンスイッチ

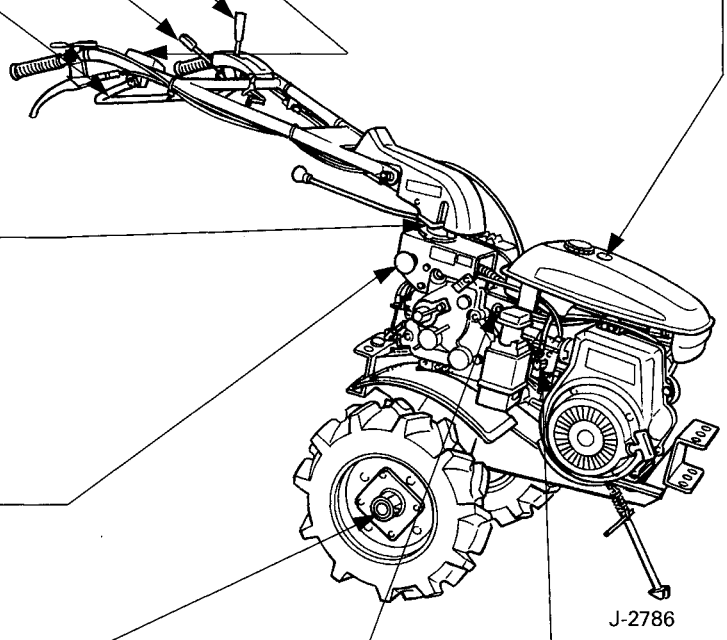
●エンジンの始動・停止に用います。



燃料ゲージ

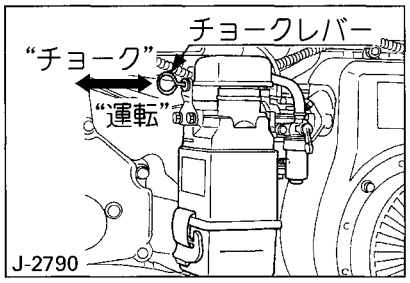
注 意

＊規定量(赤ゲージ)以上入れないでください。



チョークレバー

●エンジン始動時に使用します。



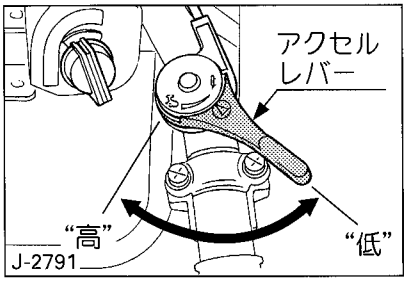
燃料コック

●エンジン停止後，必ず燃料コックを閉めます。

重 要

＊コックを開いた状態で，前に倒したり車両で運搬すると，エンジン始動が困難になる場合があります。

アクセルレバー



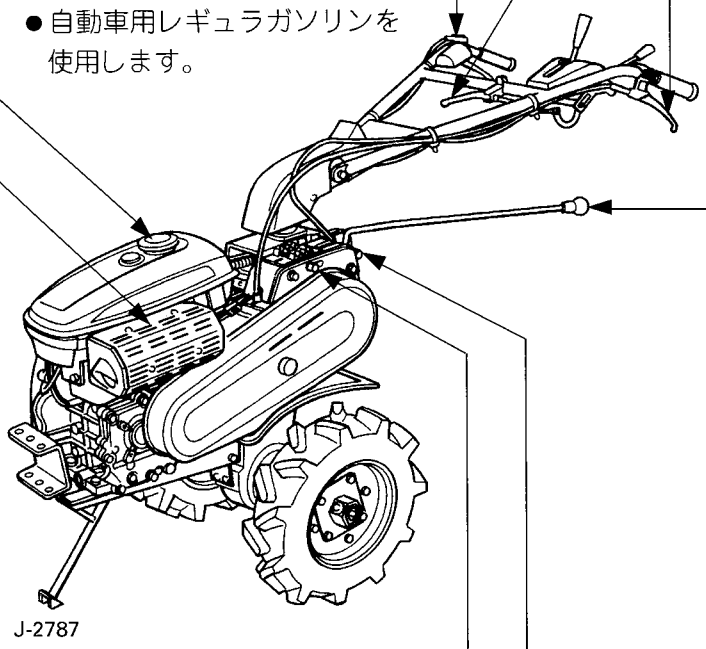
マフラ

注　意

＊ヤケドをするのでマフラに手を触れないこと。

燃料キャップ

- 自動車用レギュラガソリンを使用します。



ハンドル上下レバー

- レバーの操作によりハンドルの高さが4段階（TA12は3段階）調節できます。

操向クラッチレバー(左)

操向クラッチレバー(右)

注　意

＊車両への積・降ろし時や坂道では，絶対に操作しないこと。

- 右側のレバーを握る…右側に旋回します。
- 左側のレバーを握る…左側に旋回します。

主変速レバー

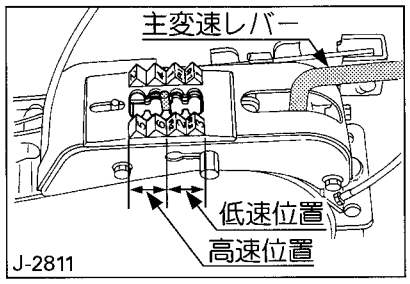
ハンドル**“正”**位置……前進6段　後進1段
ハンドル**“逆”**位置……前進2段　後進3段

注　意

＊変速操作は主クラッチを“切”ってから行なってください。

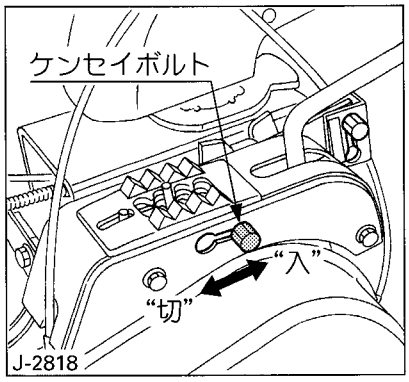
＊走行中は変速しないこと。

- 変速は案内板の表示位置に合せてシフトします。
- 低速位置と高速位置の切換えは，**“カチッ”**と音がするまで操作します。
- レバー根本部を持上げると回動できます。



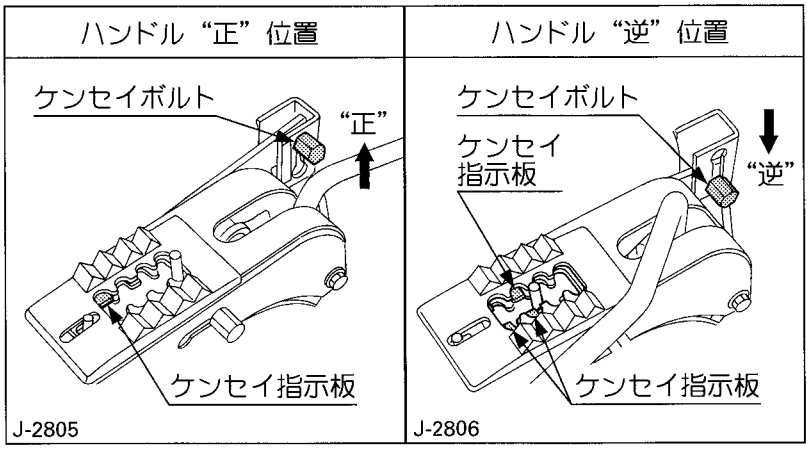
前進高速ケンセイボルト

- 車輪を装着して作業するとき（ロータ耕起作業以外）は必ず前進高速ケンセイボルトを**“入”**の位置に固定すること。



後進高速ケンセイボルト

- ハンドル位置に合せてボルトをゆるめて切替え，確実に締付けてください。



2. 作業前にこれだけチェック ● 作業前の点検について

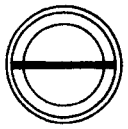
注 意

＊点検時は前スタンドを立て，機械を安定させてください。
＊点検時はエンジンを停止してください。

●調子良く作業するために 〔詳細は“管理機の簡単な手入れと処置”の章参照〕

燃　料

➡自動車用レギュラーガソリン(無鉛)を補給します。
➡タンク容量(規定量)……約3. 3 L【TA7】
約4. 8 L【TA9, 10, 12】
➡燃料ゲージ……燃料タンク内の残量がわかります。



ガソリンを赤棒以上入れないでください。

警 告

＊ガソリン給油中はエンジン停止・火気厳禁。
くわえ煙草での給油はしないでください。
＊ガソリンがこぼれたときはきれいにふき取ってください。
＊燃料が規定量以上給油されていないか確認してください。

重 要

＊水やゴミを混入しないようにしてください。

エンジンオイル

➡エンジンを水平にして，レベルゲージで規定量あるか点検します。
➡不足している場合は，クボタ純オイルを補充します。
(クボタ純オイルスーパーG 10W-30)
➡オイル量……0. 6 L【TA7】(GH170)： 0. 9 L【TA10】(GH280)
0. 9 L【TA9】(GH250)： 1. 2 L【TA12】(GH340)

ミッションオイル

➡スタンドを立てた状態で，検油口まであるか点検します。
➡不足している場合は，クボタ純オイルを補充します。(M80B又はM90)
➡オイル量……約3. 3 L

エアークリーナ

➡オイルパンの規定線まであるか点検します。
➡不足している場合は，エンジンオイルを補充します。
➡エアークリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。

タ　イ　ヤ

➡空気が抜けていないか，又，損傷がないか点検します。

各ケーブル

➡ケーブル注油部より，エンジンオイルを注油します。

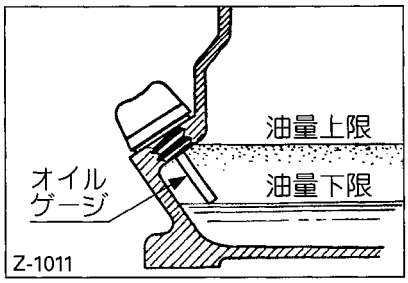
そ　の　他

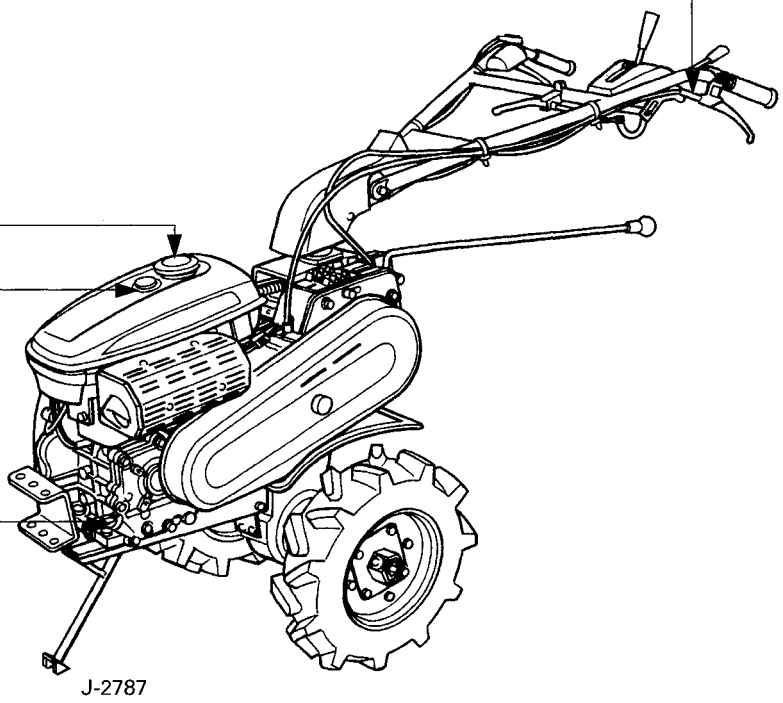
➡エンジン，ミッションケースなどから油もれがないか点検します。
➡各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
➡各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。

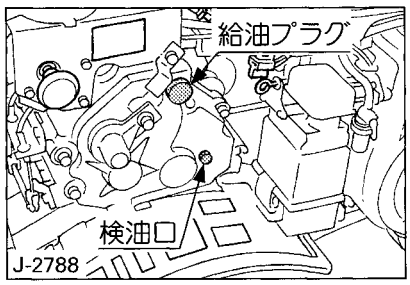
注油(操向クラッチケーブル)

燃料ゲージ

エンジンオイル
点検・給油口

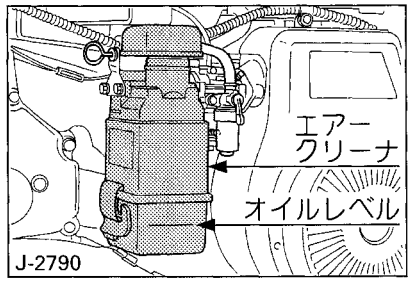




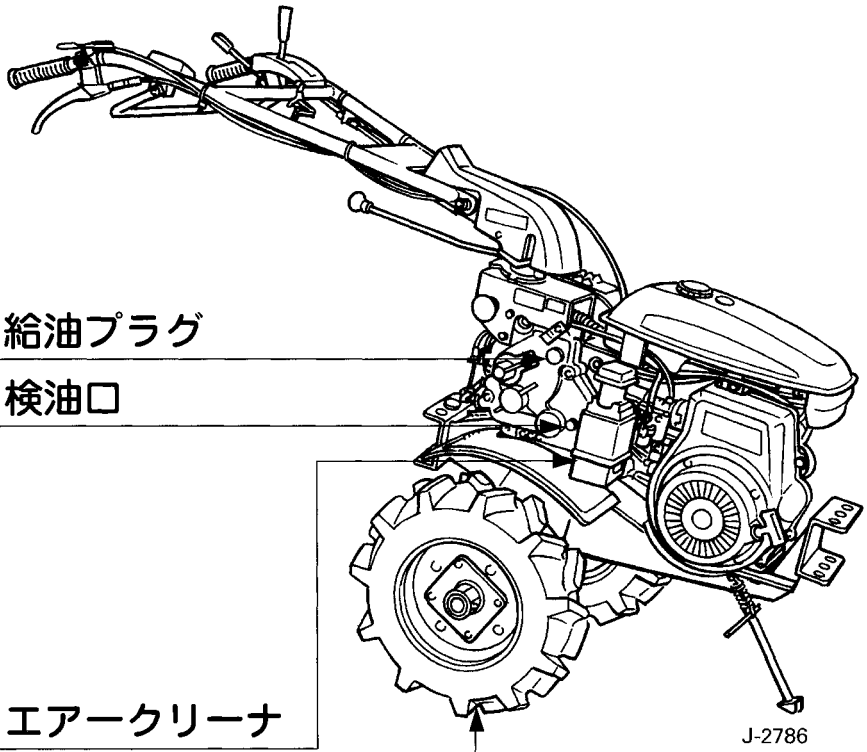


給油プラグ

検油口



エアークリーナ



注 意

＊点検時は前スタンドを立て，機械を安定させてください。
＊点検時はエンジンを停止してください。

●安全に作業するために

主クラッチ 操向クラッチ

➡クラッチの**"入・切"**が確実に行なえるか点検します。
➡駐車ブレーキが確実に効くか点検します。
➡補助主クラッチの**"切"**が確実に行なえるか点検します。
➡不良の場合は調整・注油します。

主変速レバー ケンセイボルト

➡変速が案内板の表示位置で確実に行なえるか点検します。

補 足

＊案内板に変速文字が表示されていない位置はけん制装置が働き変速できません。
➡前進高速ケンセイボルト：ハンドル正転時、前進 6 速が確実にけん制できるか点検します。
➡後進高速ケンセイボルト：ハンドル正転時、後進 2 速、
ハンドル逆転時、後進 4 ～ 6 速が確実にけん制できるか点検します。

電 気 配 線

➡被覆が溶けたり被れていないか，また配線がはさまれていないか点検します。

エンジン周辺部

➡ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着がないか点検します。

ガソリン洩れ

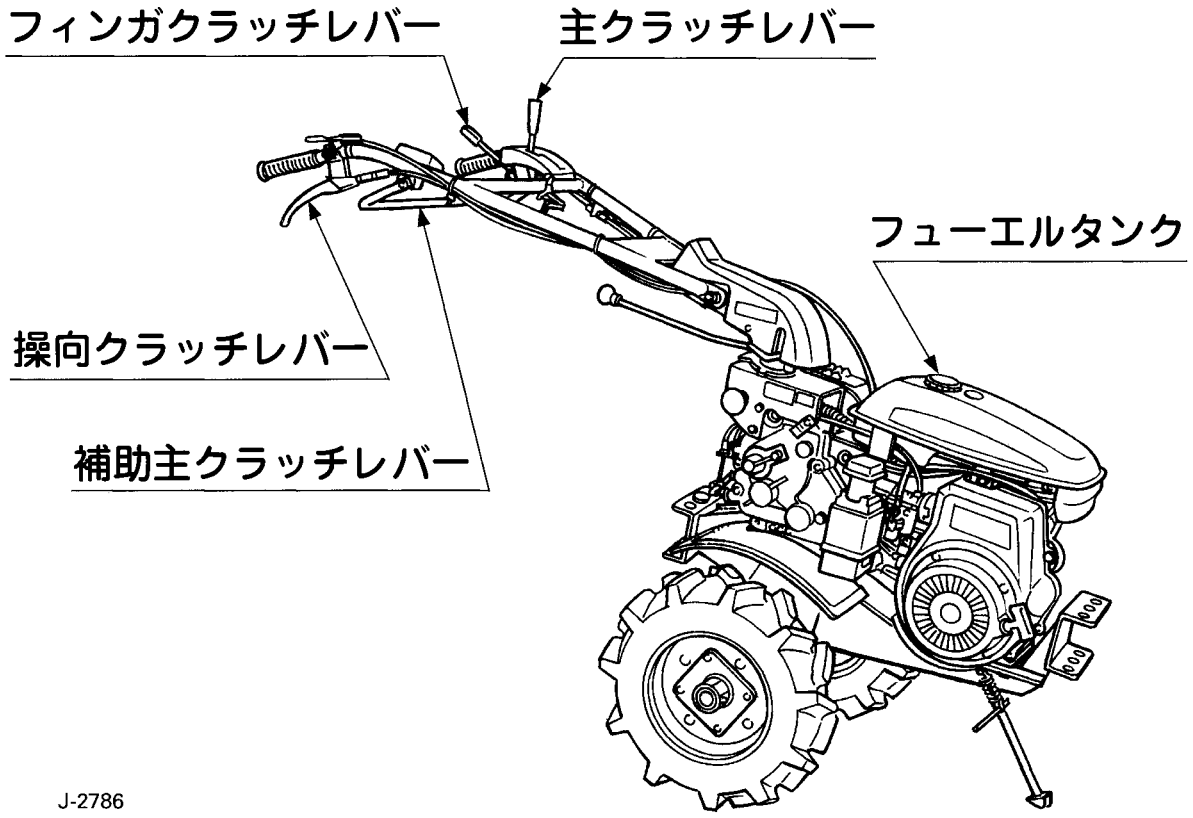
➡タンクや燃料パイプからガソリン洩れがないか点検します。
漏れがある場合は、修理点検します。
➡自動車用無鉛ガソリンを補給します。
➡タンク容量……規定量(赤ゲージ位置)以上入れないようにします。

タイヤ空気圧

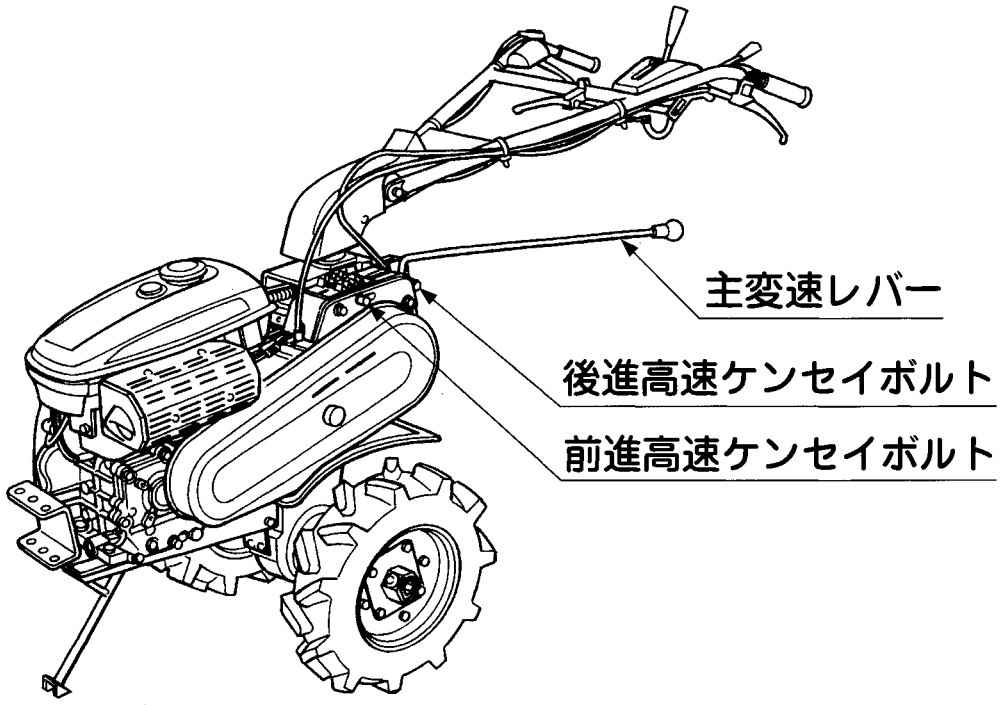
➡空気が抜けていないか，又，損傷がないか点検します。
➡適正空気圧……120kPa(1. 2kgf/㎠)

警 告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引き起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)


フィンガクラッチレバー
主クラッチレバー
フューエルタンク
操向クラッチレバー
補助主クラッチレバー

J-2786


主変速レバー
後進高速ケンセイボルト
前進高速ケンセイボルト

J-2787

3. このように運転します　● 上手な運転のしかた

ならし運転（最初の10時間程度使用まで）

この期間中は各部になじみをつけるため，エンジンを高速回転させたり，過酷な使用は避け，無理をさせないようにしましょう。

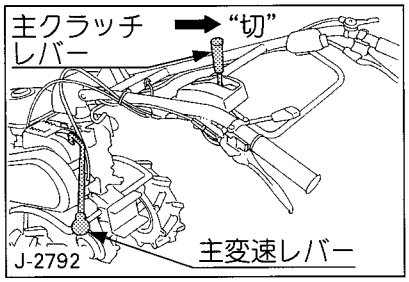
エンジンの始動のしかた

注　意

＊マフラの排気方向に，燃えやすいものがないか確認してください。
＊リコイルスタータの引張る方向に人がいないか，突起物・障害物がないか確かめてください。
＊エンジンを始動するときは，主クラッチレバー・ロータリクラッチレバー（ロータリ付）を必ず"切"にしてください。
＊エンジン運転中，マフラに手を触れないでください。

リコイル始動のとき

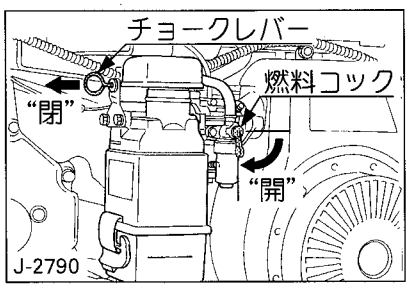
❶主クラッチレバーを必ず**"切"**の位置または**"駐車ブレーキ"**の位置にします。



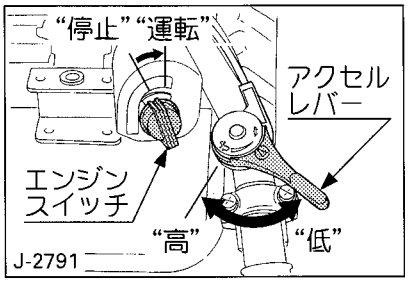
補　足

＊主クラッチレバーが**"入"**では始動けん制装置が作動してエンジンは始動しません。

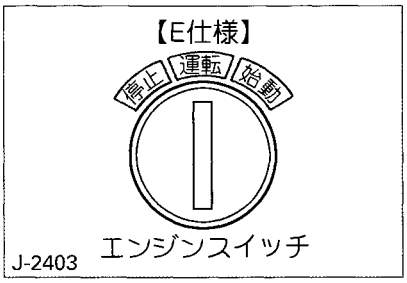
❷主変速レバーを**"中立"**にします。
❸燃料コックを**"開"**にします。
❹チョークレバーを引き**"閉"**にします。



❺アクセルレバーを**"高"**にします。
❻エンジンスイッチを**"運転"**にします。
❼リコイルスタータハンドルを握って，勢いよく引張ります。
エンジンが始動したら，リコイルスタータハンドルを静かに元に戻してください。
❽ エンジンの調子を見ながら，チョークレバーを徐々に戻します。（開く）
❾アクセルレバーを**"低"**に戻し，2～3分暖機運転を行なってから，作業を始めてください。



セルスタータ始動のとき 【E仕様】



❶～❺は リコイル始動 と同じ手順で行なってください。

❻キーを差し込み**“運転”**の位置にします。

❼キーを**“始動”**位置まで回し，エンジンを始動します。

❽エンジンが始動したところで，キーから手を離してください。
キーは自動的に**“運転”**位置に戻ります。

❾アクセルレバーを**“低”**に戻し，２～３分暖機運転を行なってから，作業を始めてください。

重 要

＊10秒間セルモータを回しても始動しない場合は，30秒休んでから再始動してください。

＊エンジン始動後，キーは必ず**“運転”**の位置にしておいてください。

補 足

＊主クラッチレバーが**“入”**では始動けん制装置が作動してセルモータが回りません。

＊バッテリが完全に放電し，セルスタータで始動不能になった場合は，キーを**“運転”**の位置にし，リコイルスタータで始動してください。

リコイル始動のとき 【E仕様】

❶～❺は リコイル始動 と同じ手順で行なってください。

❻キーを差し込み**“運転”**の位置にします。

❼～❾は リコイル始動 と同じ手順で行なってください。

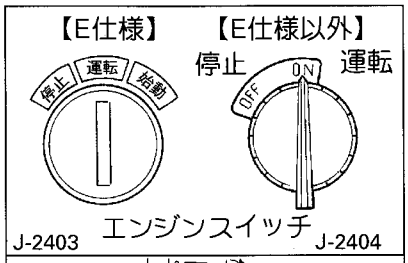
停止のしかた

注 意

＊エンジン停止後は，しばらくマフラが熱くなっていますから，手を触れないでください。

❶主クラッチレバーを“**切**”にします。

傾斜地では 駐車ブレーキ 位置まで引きます。



重 要

＊駐車ブレーキは，走行時の制動用ブレーキとして使わないでください。

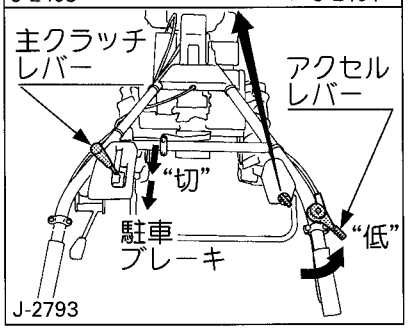
❷アクセルレバーを“**低**”にします。

❸**【E仕様】**

キーを“**切**”にすると，エンジンが停止します。

【E仕様以外】

エンジンスイッチを“**停止**”にすると，エンジンが停止します。



❹燃料コックを“**閉**”にします。

重 要

＊コックを開いたままの状態で，保管したり前に倒したり，また車両で運搬したりすると，エンジン始動が困難となる場合があります。また，クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

発進のしかた

注 意

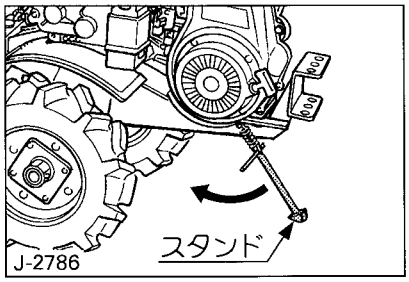
＊特に後進するときは，ハンドルが持上がるので，主クラッチの接続はゆっくり行なってください。

＊確実にケンセイが作動するか確認してください。

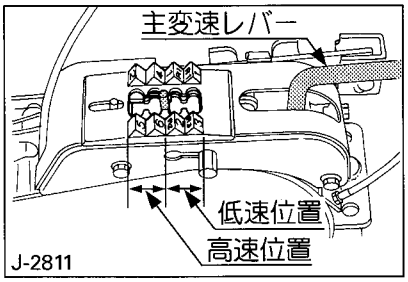
＊ケンセイしている変速位置には，無理にレバー操作をしないでください。

＊ロータ装着時後進禁止。

❶スタンドを上げます。

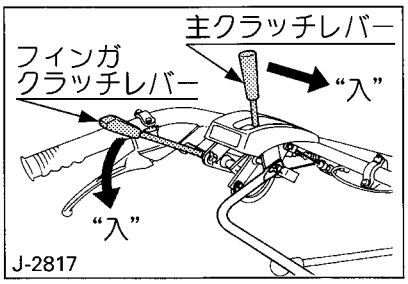


❷主変速レバーを希望の変速位置に入れます。

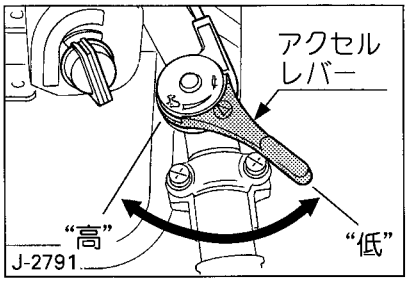


❸主クラッチレバーを“**入**”にすると発進します。

主クラッチレバーはゆっくり操作してください。また左手親指でフィンガクラッチレバーを下に押せば，ハンドルを握ったまま主クラッチが入ります。



❹アクセルレバーを操作して速度を調節します。

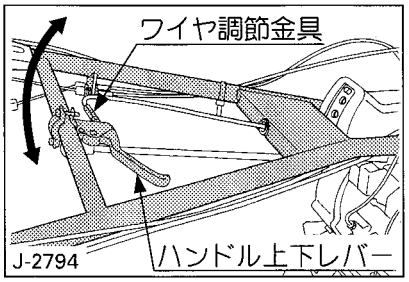


ハンドル高さの調節

注 意

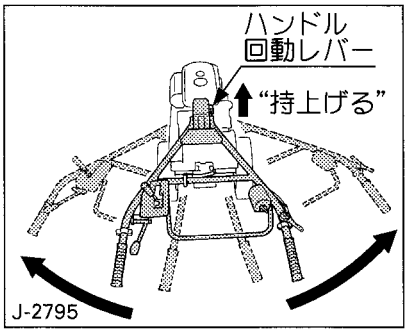
＊単体のとき…
ハンドル上下レバーの操作は必ずスタンドを立てて行なってください。
＊ロータリ付のとき…
ロータリが地面に接地していないときは危険の為操作はしないでください。
＊走行時・作業時…
危険の為操作はしないでください。

ハンドル上下レバーを握ることにより，ハンドル高さを上下に調節できます。
TA·7·9·10…… 4段
TA12…… 3段
レバーを握ってもハンドルが上下に作動しないときは，ワイヤ調節金具で調節してください。
調節後はロックナットを確実に締付けてください。
操作するときは必ず主クラッチを切り，周囲を確認すると共にゆっくり操作し，操作後はハンドルが確実に固定されているか確認してください。

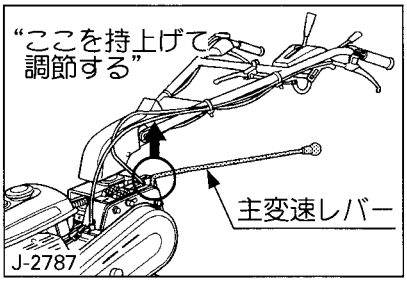


ハンドルの左右回動

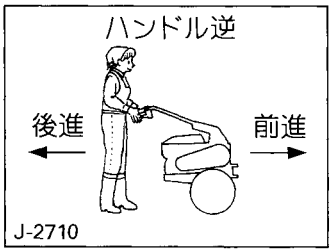
❶ハンドル回動レバーを持上げることにより，左右にそれぞれ2段階，角度調節ができます。(ハンドル逆向きの場合は右に1段階)



❷主変速レバーの根元を持上げて，ハンドルを調節した位置に合わせてセットしてください。

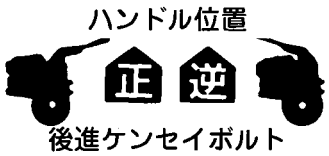


ハンドルの逆向き



注 意

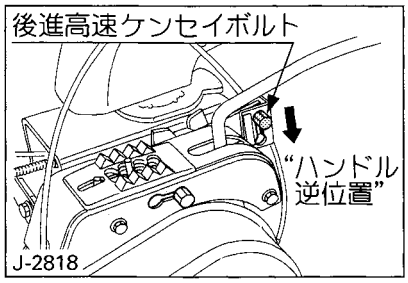
＊後進での高速移動は衝突の危険がありハンドル位置に合わせ必ずケンセイボルトを切替えて作業してください。



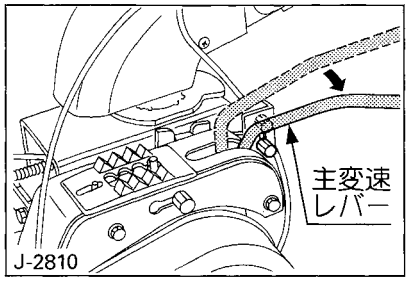
＊主変速レバーがマフラに近いときは変速操作には十分気をつけてください。

■ハンドル“正”位置から“逆”位置への切替え

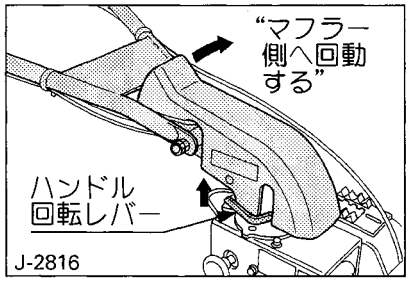
❶後進高速ケンセイボルトをゆるめ，ハンドル**“逆”**位置に固定する。



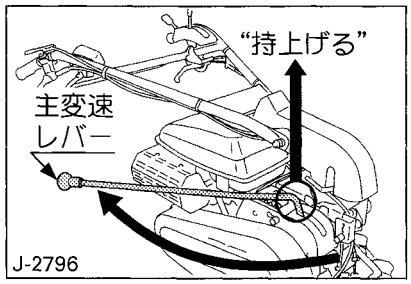
❷主変速レバーを**“中立”**にし，低速側(下方)へ寄せる。



❸ハンドル回動レバーを持上げて，ハンドルをマフラー側へ回動すると，**“逆”**位置になります。



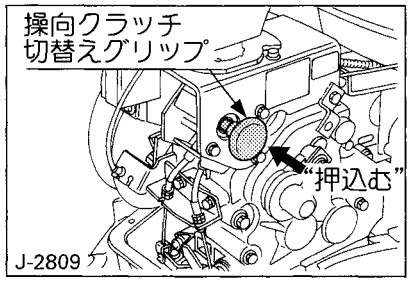
❹主変速レバーの根元を持上げて**“逆”**位置にします。

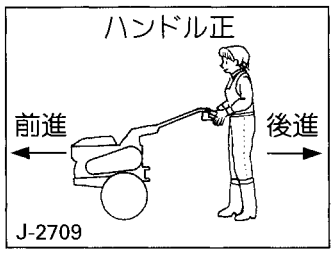


補 足

＊手がマフラーに接近しないよう図の位置以上回動しません。

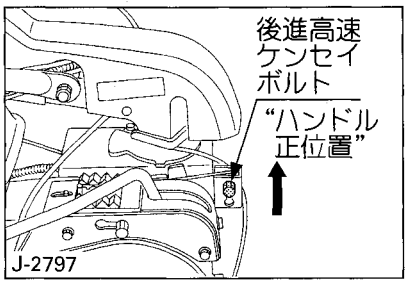
❺操向クラッチ切替えグリップを**“逆”**の位置に切替えてください。
(グリップをケース側に押してください。)



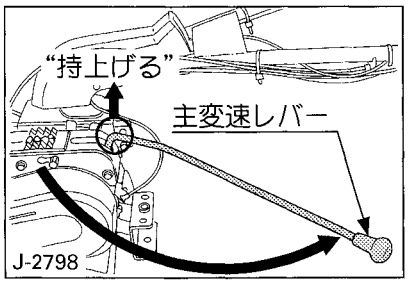


■ハンドル“逆”位置から“正”位置への切替え

❶後進高速ケンセイボルトをゆるめ，ハンドル**“正”**位置に固定する。

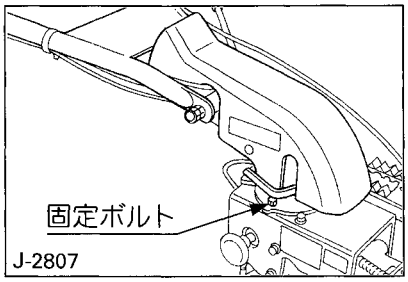


❷主変速レバーの根元を持上げて**“正”**位置にします。
❸主変速レバーを**“中立”**にし，低速側（下方）へ寄せる。
❹ハンドル回動レバーを持上げて，ハンドルをマフラー側へ回動すると**“正”**位置になります。
❺操向クラッチ切替えグリップを**“正”**の位置に切換えてください。



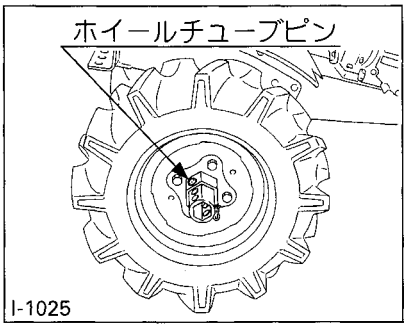
ハンドルの固定

ハンドル**“正”**位置および**“逆”**位置の中央位置のみで長期間使用するときは必ず固定ボルトを締付けて使用してください。
（固定ボルトは付属品の中に入っています。）



車輪間隔調節と車輪交換

作業条件に応じて，車輪間隔調節と車輪交換は次のとおり行ないます。
車輪ハブと六角ホイールチューブは，ホイールチューブピン１本で取付けてありますので，ピンを抜いて，調節や交換を行なってください。



注　意

＊必ずエンジンを停止して行なってください。
＊車輪交換は平たんな場所で行なってください。

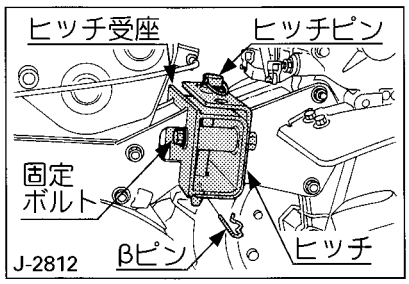
ロータリの着脱のしかた【アタッチメント採用】

注 意

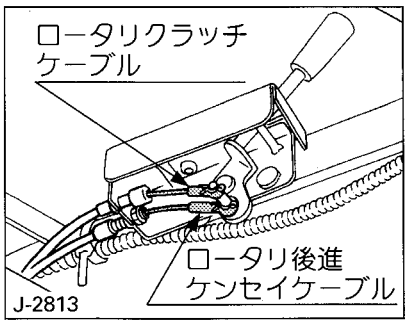
＊取外し・取付けは，エンジンを停止し平たんな場所で行なってください。
＊ロータリを取外したあとは，本機接合部(PTO部)にキャップを取付けておいてください。

■ロータリの取付け方

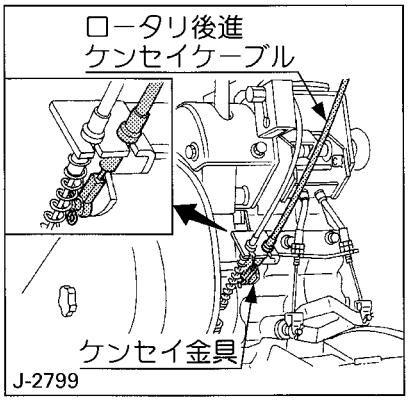
❶ロータリのヒッチ受座と本機のヒッチを合せます。
❷ヒッチとヒッチ受座の穴を合せ，ヒッチピンを差込みβピンを入れます。



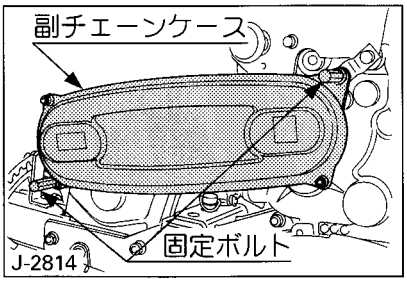
❸ロータリクラッチレバーにロータリクラッチケーブルとロータリ後進ケンセイケーブルを取付けます。



❹本機側ケンセイ金具にロータリ後進ケンセイケーブルを取付けます。



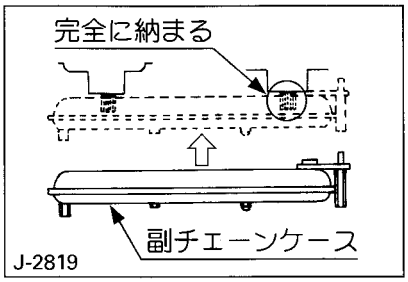
❺副チェーンケースを取付けます。



重 要

＊スプラインが合いにくいときはロータリクラッチレバーを**“入”**に入れ，爪軸を手で回して合せてください。
＊副チェーンケースが**“本機”・“ロータリ”**におさまりきらないときは，ロータリケースの締付けボルトをゆるめてインローを合せてください。
＊ロータリクラッチレバーを**“切”**に戻してください。

❻ロータリ固定ボルトを締付けてください。



重 要

＊取付後はロータリクラッチが**“切”・“入”**に確実に入るか確認してください。

注 意

＊取外し・取付けは，エンジンを停止し平たんな場所で行なってください。

＊ロータリを取外したあとは，本機接合部(PTO部)にキャップを取付けておいてください。

■ロータリの外し方

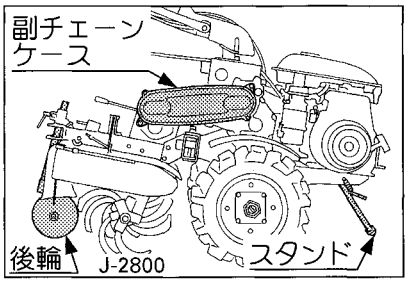
❶スタンドを立て機体を安定させます。

❷耕うん爪を地面に接地させたとき，後輪が5～8㎝浮くように調整します。

❸ボルトを外し，副チェーンケースを取外します。

❹ロータリクラッチケーブルをハンドル側で取外します。

❺ロータリ後進ケンセイケーブルは本機ケンセイ金具側で取外します。



重 要

＊外したピンはケーブル側に取付けておいてください。

❻ロータリ固定ボルトを取外しヒッチピンを抜きます。

❼ハンドルを下げ，ロータリを後方に引いてください。
（本機を前方に押し出してもよい。）

作業機用バッテリ充電のしかた

【TA9・TA10・TA12のL2仕様】
専用の充電用ワイヤハーネスコネクタを本機側のコネクタに接続してください。

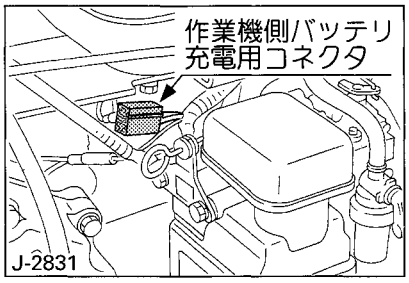
重 要

＊作業機のバッテリを充電するためには専用(オプション部品)の充電用ワイヤハーネスとレギュレータが必要です。【P仕様には標準採用(別梱包)】

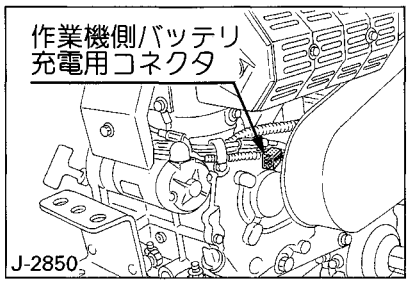
品　番	品　名
KK123-55101	ワイヤハーネス、アッシ(ジュウデン)

＊誤った接続を行なうと，電気火災のおそれがありますので，作業機側の取扱説明書をよく確認してください。
わからないときは，購入先にご相談ください。

【セルなし仕様】



【セル付仕様】



4. こんなときどうする？　● 管理機の簡単な手入れと処置

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊廃油，燃料，冷却水(不凍液)，冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

注　意

＊給排油・点検・調節・清掃　はエンジンを停止して行なってください。
＊前スタンドを立て機械を安定させて行なってください。

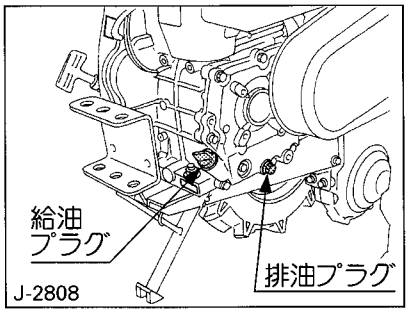
エンジンオイルの交換

■排油のしかた

前スタンドを立てて，給油プラグを外し，そのあと排油プラグを取外し，排出してください。

■給油のしかた

前スタンドを立てて，スタンドの下に台をおき，エンジンを水平にして，給油口の口元まで入れてください。



交換		オイル量	オイルの種類
第1回目	以後		
25時間使用後	100時間使用ごと	0.6 L【TA7】	クボタ純オイル スーパーG 10W-30
		0.9 L【TA9, TA10】	
		1.2 L【TA12】	

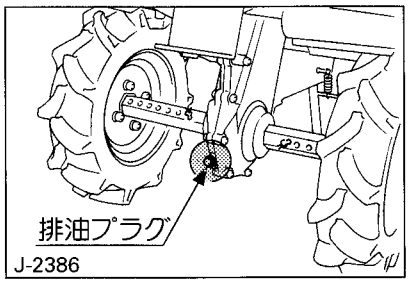
ミッションオイルの交換

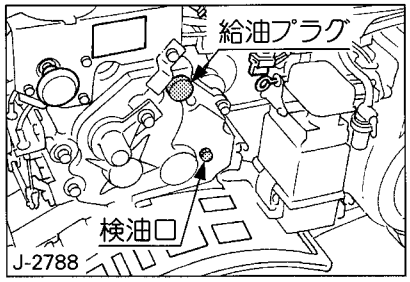
■排油のしかた

機体を前方に傾けて，排油プラグを取外し，排出してください。

■給油のしかた

前スタンドを立てた状態で給油プラグを外し，検油口から油があふれるまで給油してください。





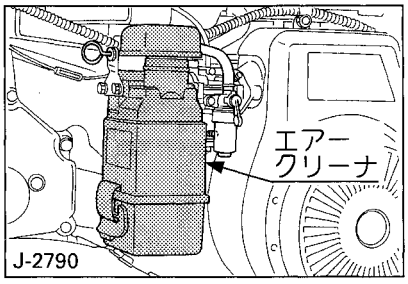
交換		オイル量	オイルの種類
第1回目	以後		
50時間使用後	100時間ごと	3.3 L	クボタ純オイル又はM90又はM80B

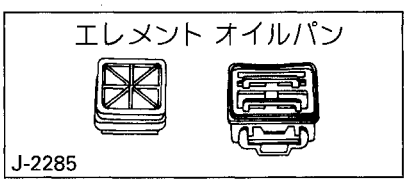
エアークリーナエレメントの清掃とオイル交換

❶エレメントを取外し，白灯油で洗い，エレメントの白灯油をよく振切って取付けてください。

❷オイルパンはよく洗浄し，新しいエンジンオイルを規定量入れてください。

- 規定量…OIL LEVELと記載されているところ





重 要

＊汚れたまま使用しますと，エンジンの出力低下や故障の原因になります。

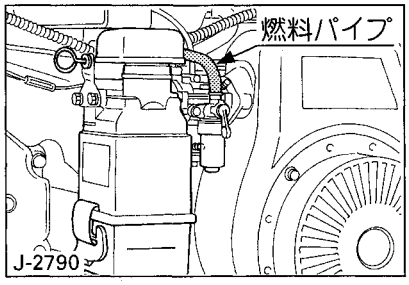
50時間使用ごと	エアークリーナの点検
100時間使用ごと	エアークリーナの掃除

交 換	2年間ごと

燃料パイプの交換

警 告

＊燃料パイプは自然劣化したり傷があると，ガソリン洩れして火災の原因となります。ヒビや割れが発生したものは，新しい燃料パイプと交換してください。



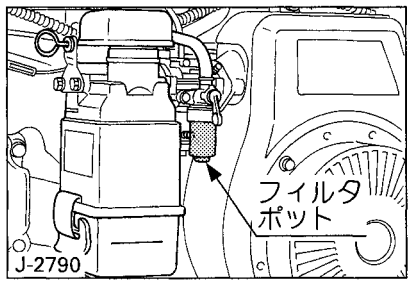
燃料フィルタの清掃

注 意

＊取付け後，ガソリン洩れがないか確認してください。

(1)燃料フィルタは，燃料のゴミを取除きます。取除かれたゴミは，ポットの底にたまります。

(2)燃料コックレバーを**"開"**にし，フィルタポットを外し，ポットの底にたまっているゴミや水を捨ててください。



100時間使用ごと	フィルタの清掃
300時間使用ごと	タンクの清掃

点火プラグの調整・清掃・交換

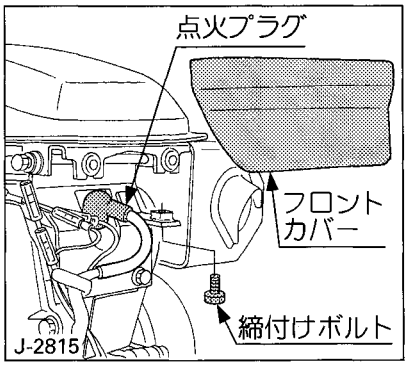
❶フロントカバー締付けボルトをゆるめ，カバーを外します。
❷プラグ用ボックススパナでプラグを外して電極を清掃します。
❸電極のすき間が0.6～0.7㎜になるように調節してください。
❹点検調節は６ヵ月に１回行なってください。

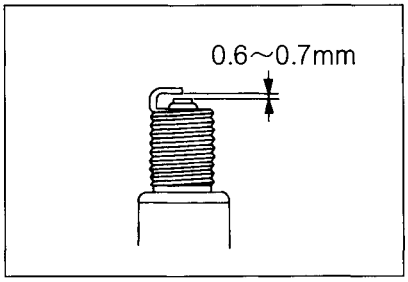
【TA7，TA9，TA10】

点火プラグ	NGK　BP6HS

【TA12】

点火プラグ	NGK　BP6ES





重　要

＊締付け時は，ネジ山をつぶさないよう，はじめ手で締込んでから，ボックススパナで締付けてください。
＊調節・清掃してもエンジンが不調のときは，新しいプラグと交換してください。

主クラッチケーブルの調節

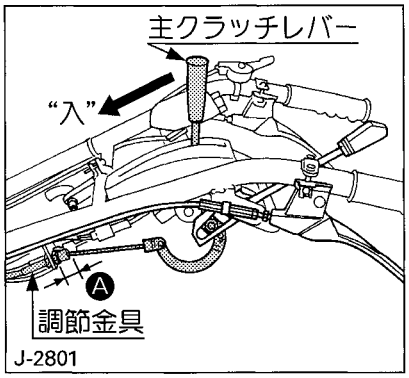
注　意

＊ベルト調節を行なう場合は，必ずエンジンを停止して行なってください。
＊調節が終わったら必ずベルトカバーを取付けてください。
＊エンジンを始動する前に，主変速レバーを中立にし，スタンドが出ていることを確認してください。
＊エンジンが回っているときは，危険ですので付近に近よらないでください。

■主クラッチケーブルによる調節

主クラッチレバーを入れた状態でベルトの中央部を指で押えて10～15㎜たわむ程度にケーブル調節金具でテンションプーリを調節してください。
なお，使用初期はベルトが伸びやすいため，10時間使用後ケーブルを再調節してください。

ベルトがスリップする場合	調節金具のⒶ部を短くする。
主クラッチレバーが重すぎる場合	調節金具のⒶ部を長くする。

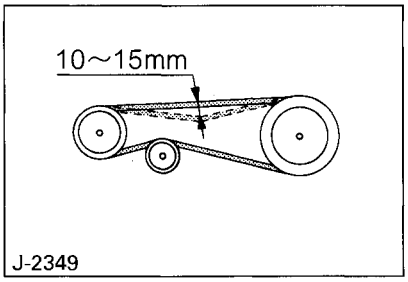


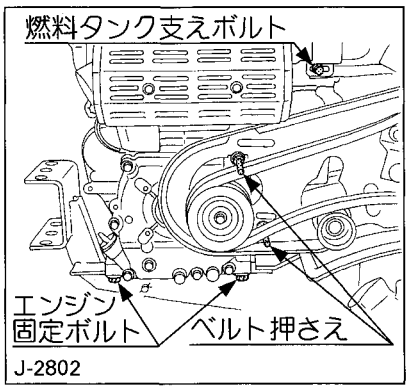
■エンジン前後による調節

ベルトが伸びたり，又は新しいベルトに取換えたとき，主クラッチケーブルで主クラッチの調節ができない場合は，エンジンを前後に移動調整します。エンジン固定ボルト４本と，燃料タンク支えボルト，ベルトカバーのベルト押さえをゆるめて調節し，調節後は確実にボルトを締付けてください。

重　要

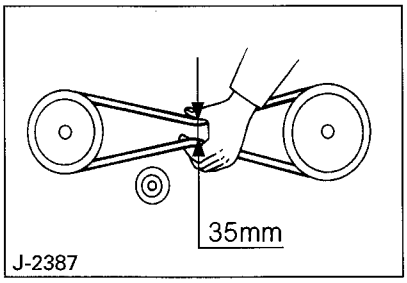
＊主クラッチケーブルを調節した場合，エンジンを始動してクラッチの**“入・切”**が確実に作動するか確認してください。





新しいベルトに交換する場合

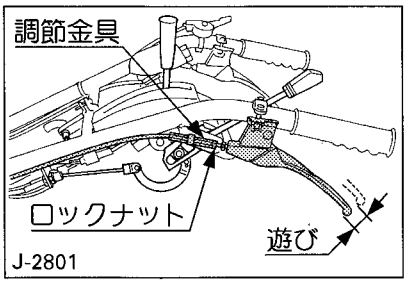
新しいベルトに交換する場合は，ベルト中央部を指ではさんですき間を約35㎜ぐらいにして，エンジン固定ボルトを締付けてください。



操向クラッチケーブルの調節

操向クラッチレバーを握っても操向クラッチが切れにくい場合，又操向クラッチレバーを離しても入りにくい場合は，調節金具で調節します。

操向クラッチ	調 節 金 具
切れにくい場合	長くする
入りにくい場合	短くする



調節後は，調節金具のロックナットを確実に締付けてください。

タイヤの空気圧

空気圧が高すぎても低すぎても，タイヤの寿命を縮めますから，定期的に空気圧を調べ，適正になるように調節してください。

適正空気圧	120kPa(1.2kgf/cm²)

空気を入れるには，エアーコンプレッサ，又は自動車などのタイヤに空気を入れる高圧手押しポンプを用いてください。

警 告

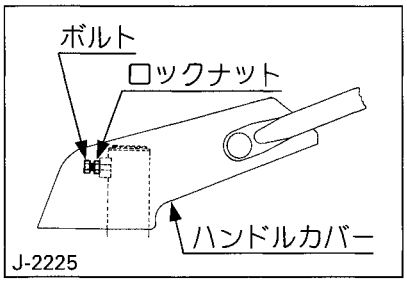
＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引き起こす原因になります。

＊タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。

＊タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)

ハンドル回動時のあそび調節と固定

(1)ハンドル回動部のあそびが多すぎる場合はボルトを締込み，止まった位置より1/6回転ぐらい戻した位置で，ロックナットを固定してください。
（ハンドル回動が重くならない程度に調節します。）
(2)ハンドル中央位置のみで長期間使用するときは，必ず固定ボルトを締付けてください。
（固定ボルトは付属品の中に入っています）

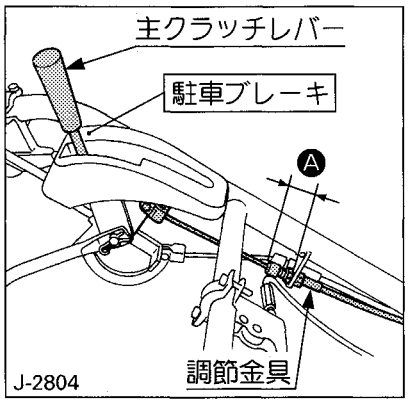


ブレーキの調節

主クラッチレバーが駐車ブレーキの位置でブレーキが効き，**“切”**位置でブレーキが解除されるか点検してください。

【調節のしかた】

駐車ブレーキ位置でブレーキが効かないとき	調節金具のⒶ部を短くする。
“切” 位置でブレーキが解除されないとき	調節金具のⒶ部を長くする。



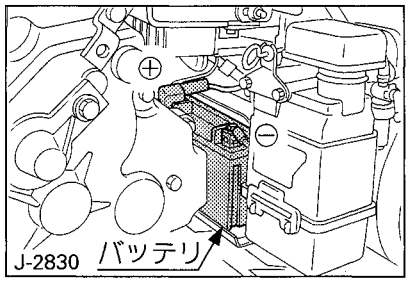
バッテリ【E仕様】

注 意

＊バッテリの点検及び取外し時にはエンジンを停止し，エンジンスイッチを“切”にしてください。
＊バッテリに火気を近づけたり，ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。
＊一般充電器を改造し，補充電用コネクタに接続しないでください。火災の恐れがあります。

■バッテリの補充電方法

❶バッテリからコードを取外すときは，必ず⊖側から外してください。（⊕側から外すと，工具などが接触したときにショートすることがあります）
❷充電はバッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖に接続して行ないます。充電器は専用充電器(ユアサPS1512)のご使用をお奨め致します。充電器の取扱説明書をよく読んで行なってください。
❸端子電圧を測定し充電状態を確認して，下表の要領で補充電を行なってください。



端子電圧	充電状態	充電方式		
		PS1512使用	小形充電器使用※1	エンジンの運転※2
12.65V以上	100~80%	補充電不要	補充電不要	補充電不要
12.65~12.3V	80~55%	充電中の表示ライト消灯まで	2.5~6 時間	1.3~3 時間
12.3~12.0V	55~20%		6~10 時間	3~5 時間
12.0V未満	20~0%		10~12 時間	5~6 時間

重 要

※1；小形充電器を用いて充電する場合，下記充電電流を厳守してください。

	バッテリ型式	充電電流
TA9E，TA10E	YTX9-BS（ユアサ）容量（10HR）8Ah	0.9A

※2；エンジン最高回転時の充電時間です。
（充電電流……約1.5A）

■補充電後のバッテリ良否判定

補充電完了後，静止状態で60分以上経過後，端子電圧を測定してバッテリの良否を判定してください。

端子電圧	バッテリ良否判定
12. 65V以上	良好
12. 65～12. 0V	再充電（2回まで）
12. 0V未満	不良(バッテリ交換)

重　要

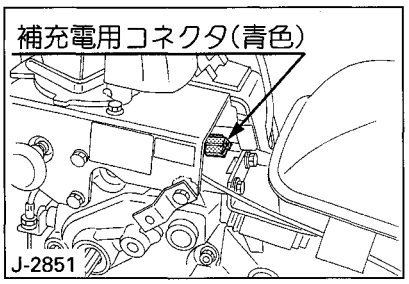
＊一般の容量の大きい充電器は絶対使用しないでください。
＊MFバッテリの密閉栓は絶対外さないでください。
　バッテリは完全密閉式ですからバッテリ液の点検，補水は不要です。
＊端子の締付けは確実にしてください。また，端子が錆びないようにグリースを塗布しておいてください。
＊バッテリの⊕側には，ゴムブーツを必ず取付けてください。

■保存中の管理

バッテリは保存中でも自己放電しますから，夏は2ヵ月に1度，冬は3ヵ月に1度，3時間程度の実作業をするか，同等の空運転を行なうか，又は専用充電器を使用して充電してください。

補　足

専用充電器(オプション部品)を用いての補充電
＊専用充電器を用いれば，バッテリから⊕コードを外すことなく，補充電用コネクタに接続するだけで，簡単に充電できます。
＊⊖コードは，必ず外してください。

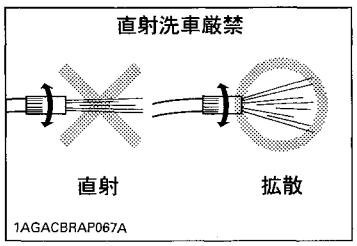


専用充電器

品　番	品　名
KK251-5560-1	充電器アッシ

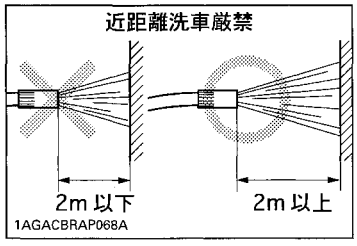
洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。



注　意

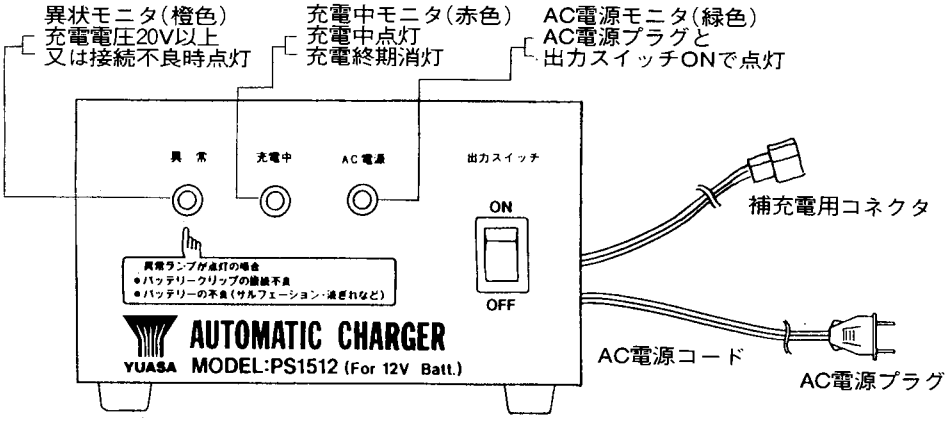
＊機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1)シール・ラベルの剥がれ
(2)電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
(3)タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4)塗装，メッキ面の皮膜剥がれ



専用充電器の使用方法【オプション部品】

専用充電器はTA9E，TA10E用バッテリ(YTX9-BS)を全自動で充電することができる最適な充電特性を持つオートマチックチャージャーです。又，放電の程度が深く内部抵抗が大きいバッテリを高い充電電圧により回復を促進する機能や，回復不能バッテリを異常モニタで表示する機能も持っています。
※ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みいただき，正しくお使いください。

■部品の名称とモニタ表示



補　足

＊充電開始後はモードⅠで進行し，3時間経過すると自動でモードⅡに切り替わります。以降はモードⅡで推移します。
＊モードⅠで充電電圧が20V以上になるか出力端子への接続不良があると異常モニタ(橙色)が点灯します。
＊モードⅡで充電電流が0.3A以下になると充電中モニタ(赤色)が消灯し，ほぼ充電状態(90～95%充電状態)に近いことを示します。
＊短絡(ショート)させた場合，過電流保護回路により回路は保護されます。

充電器要項表

形式名	交流入力(50/60Hz)		直流出力			外形寸法(約mm)			重量	コード長(m)		適用バッテリ
	電圧(V)	電流(A)	モード	電圧(V)	電流(A)	幅	奥行	高さ	約kg	交流側	直流側	
PS1512	100	0.3	Ⅰ	20.0	0.5	145	176	87(含ゴム足)	1.4	1.5	1.8	YTX9-BS(ユアサ)
			Ⅱ	15.0	1.2							

■補充電方法

❶アース側コード(マイナスコード)を外してください。
❷補充電用コネクタを本機側コネクタ(青色) に接続してください。
❸TA9E，TA10E用バッテリは密閉形バッテリです。密封栓は絶対に外さないでください。
❹AC電源プラグをコンセントに差し込んだ後，出力スイッチをONにしてください。
AC電源モニタ(緑色)と充電中モニタ(赤色)が点灯し充電を始めます。
モードⅠの状態で高い充電電圧(20V/0.5A)による充電が行われます。
異常モニタ(橙色)が点灯の場合
①コネクタが正常に接続されているか確認してください。
②正しく接続されていた場合，バッテリが放電状態での放置期間が長く劣化したり，電解液不足による故障などが想定されます。この場合充電しても回復できませんので新品バッテリと交換が必要となります。

❺充電が進み約3時間経過すると，内蔵タイマーにより出力がモードⅠからモードⅡに切り替わり，通常の充電電圧(15V/1.2A)となります。

❻バッテリがほぼ充電状態(90～95%充電状態)に近づくと充電中モニタ(赤色)が消灯します。充電を終了する場合は必ず電源スイッチをOFFにした後，コネクタを取外してください。引き続き充電を継続する場合，3日を越えないようにしてください。

充電所要時間

容量 (Ah/10HR)	2.3	3	4	6	8	10	12
充電時間 (約時間)	4	5	6	7	9	11	13

※補充電の場合80%放電状態から充電中モニタ(赤色)が消灯(90～95%充電状態)する迄の目安時間です。充電状態(ほぼ100%)にするには引き続き2～4時間充電を継続してください。

注 意

1. 充電中は，タバコなど火気を近づけないでください。
2. 充電は屋内の風通しが良く直射日光の当たらない場所で行なってください。
   周囲温度0～40℃の範囲内で使用ください。
3. チャージャーの通気孔はふさがないでください。
4. バッテリとチャージャーを接続したり外したりする時は，必ずチャージャーの出力スイッチを“OFF”の位置で行なってください。又，充電用コネクタは短絡(ショート)させないでください。
5. チャージャーは，ガソリン，シンナーなど揮発性可燃物の近くで使用しないでください。
6. 長時間充電を行なう場合でも3日以内としてください。
7. このチャージャーはバッテリの充電以外に使用しないでください。
8. このチャージャーの交流入力は100Vです。指定外の電源電圧で使用しないでください。
9. 湿度の高い場所，雨，雪など水分のかかる場所では使用しないでください。漏電，感電および本器の故障の原因となることがあります。
10. ヒューズ切れが発生したら，原因を取除いてから同一定格のヒューズに取替えてください。定格以上のヒューズを使用すると，充電器の過熱，発火の原因となります。
11. 充電器本体や電源コード，出力コードの接続部に，他の金属類を差込んだり，接続しないでください。感電，発熱，および発火の原因となります。
12. 木くず，可燃性オイルなど可燃物の近くで使用しないでください。火災の原因となることがあります。
13. 異常や不具合が生じた場合，使用者による修理はしないでください。
14. 塩害や塵廃，化学性ガス，振動の受けやすい場所で使用したり，保管しないでください。
15. コード類を無理に曲げたり，上に物を載せないでください。また，芯線の腐蝕，切り欠などによる露出がないか確認ください。
16. 電源コードは使用しない時は，コンセントから抜いておいてください。また，コードを引っ張らずプラグを持って抜いてください。
17. 本器を分解したり，改造したりしないでください。

電気配線及びヒューズ【E仕様】

注 意

＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，火災の恐れがあるので必ず点検してください。

＊バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

(1)ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。

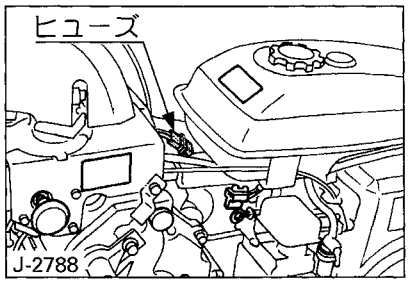
(2)ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。

(3)各スイッチが確実に作動すること。

■ヒューズの交換

ワイヤハーネス部のヒューズホルダ内のヒューズを交換してください。

(規定ヒューズ：20A)



重 要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などを使用せず，購入先で点検を受けてください。

ロータリ後進ケンセイ装置の調節

警 告

＊後進ケンセイ装置の解除は行なわないこと。

注 意

＊調節後は，調節金具のロックナットを確実に締付けてください。

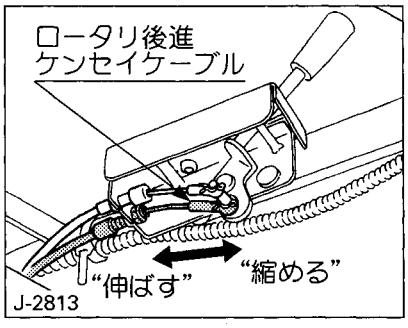
＊調節が終ったら，主変速レバーを“中立”，ロータリクラッチレバーを“切”に戻してください。

ロータリクラッチレバーと主変速(後進)にけん制装置をもうけてあります。

＊ロータリクラッチレバーが**“入”**のときは，主変速レバーは**“後進”**に入りません。

＊主変速レバーが**“後進”**に入っているときは，ロータリクラッチレバーは**“入”**に入りません。

上記の作用が不十分な場合は，後進ケンセイケーブルの長さを調節してください。



現　　象	処　　置
(1)主変速レバーが **“後進”** に入っているのにロータリクラッチレバーが **“入”** に入る場合。 (2)ロータリクラッチレバーが **“入”** に入っているのに主変速レバーが **“後進”** に入る場合。	後進ケンセイケーブルの調節金具を伸ばす方向に調節してください。
(1)主変速レバーが **“後進”** に入っていないのにけん制が働いてロータリクラッチが入らない場合。 (2)ロータリクラッチレバーが **“切”** なのにけん制が働いて主変速レバーが **“後進”** に入らない場合。	後進ケンセイケーブルの調節金具を縮める方向に調節してください。

5. 作業が終わったら

使用後の手入れ

使用後は，必ずその日のうちに清掃を行ない，各部に付いている土やゴミを落とし，各しゅう動部はさびないよう油を塗布してください。

重 要

＊水洗いのとき，エアークリーナ吸込口から水が入らないようにカバーをしてください。

エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後，必ず燃料コックを閉めてください。

重 要

＊コックを開いたままの状態で，保管したり，前に倒したり，また車両で運搬したりすると，エンジン始動が困難となる場合があります。また，クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

保　管

(1)主クラッチレバーは駐車ブレーキの位置にして，保管します。
(2)エンジンのシリンダ内に湿気が入って，始動が困難になるのを防止するためリコイルスタータハンドルを引張って，圧縮位置で止めておきます。
(3)燃料タンク・キャブレター・フィルタポットの中のガソリンは全て抜取ります。（1カ月以上使用しないとき）
(4)カバーをかけ，湿気やホコリの少ない場所に置いてください。

注 意

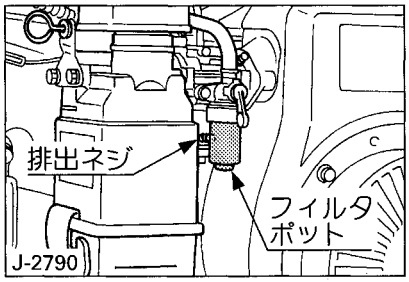
＊カバーをかけたり，納屋に格納するときは火災のおそれがあるため，エンジンが冷えてからにしてください。

重 要

＊ほ場に保管していると，地面からの湿気が多いので錆びやすくなります。

燃料の抜取り

1カ月以上使用しないとき，燃料タンク内のガソリンはポンプなどを使用して抜取り，キャブレター内は排出ネジをゆるめて，フィルタポットは外して全部抜取ってください。



重 要

＊燃料をそのままにしておくと，燃料タンクやキャブレター内のガソリンが腐って，次の始動が困難になります。

注 意

＊燃料がこぼれたときは，きれいにふき取ってください。

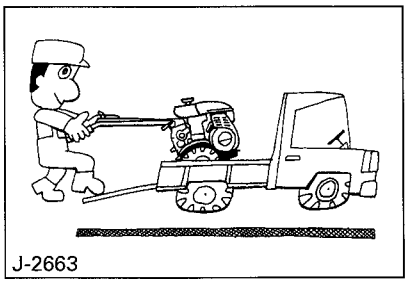
6. 管理機を運搬するとき

自動車(トラック)への積込み，運搬

注 意

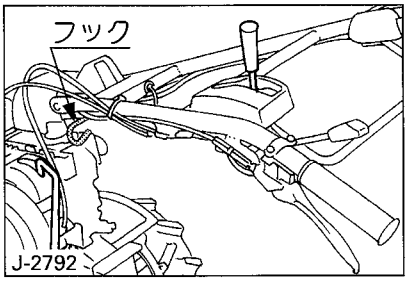
＊あゆみ板は，丈夫なすべり止めのあるものを使用してください。
＊途中で，操向クラッチや主クラッチは絶対に切らないでください。
＊登りは“前進”，下りは“後進”で行なってください。
＊トラックは，荷台に天井が無い車を使用してください。
＊ロータを装着して，あゆみ板の上り，下りは危険です。絶対にしないでください。

(1)トラックを平たんな場所に止め，駐車ブレーキを掛けます。
(2)あゆみ板を荷台に確実に固定します。
(3)上り，下りは最低速で走行します。
(4)主変速レバーは，前進1速に入れ，また主クラッチレバーも**“入”**にしておきます。
(5)機体は荷台にロープで確実に固定します。
(6)機体にロープを掛けるときは，後ヒッチ・車輪・前スタンド・ハンドル部2ヵ所を固定してください。
(7)燃料コックレバーは**“閉”**にします。
(8)雨天時には，エアークリーナの吸込口にカバーをかぶせてください。
(9)ロータを装着しているときは，タイヤと交換して行なってください。


J-2663

重 要

＊ロープを掛けるとき，ハンドル下側のフックを使用し変速レバーや樹脂カバー，小物部品にロープが触れないように気を付けてください。
破損したり機能が損なわれる恐れがあります。
＊エアークリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると，雨水や砂ホコリが入りエアークリーナ性能が低下します。
＊燃料コックレバーを“開”いたまま運搬すると，キャブレター内でガソリンがオーバフローし，エンジン始動が困難となります。またクランクケース内にガソリンが流入することもあります。



J-2792

7. 付　記

● 主要諸元・走行速度・車軸回転数一覧表・標準付属品・主な消耗部品一覧表・オプション部品

■主要諸元

型式名			TA7	TA9		TA10		TA12	
区分（商品名）			TA7	TA9	TA9-E	TA10	TA10-E	TA12	TA12-H
機体寸法	全長 (mm)		1700	1780					
	全幅 (mm)		650						
	全高 (mm)		1300	1330				1230	1330
質量（装備）(kg)			94	109	115	109	115	115	
エンジン	型式名		GH170-1	GH250		GH280		GH340	
	種類		空冷4サイクルガソリンエンジン(OHV)						
	総排気量 (cm³)		169	247		274		340	
	定格出力/定格回転数 kW/min⁻¹ (PS/rpm)		3.2/1800 (4.4/1800)	4.1/1800 (5.6/1800)		4.8/1800 (6.5/1800)		5.9/1800 (8.0/1800)	
	最大出力 (kW(PS))		4.6(6.2)	6.3(8.5)		7.4(10)		8.3(11.3)	
	使用燃料		自動車用レギュラーガソリン(無鉛)						
	燃料タンク容量 (L)		3.3	4.8					
	始動方式		リコイルスタータ	リコイルスタータ セルスタータ		リコイルスタータ	リコイルスタータ セルスタータ	リコイルスタータ	
主クラッチ方式			ベルトテンション						
操向クラッチ方式			爪クラッチ						
制動方式			内部拡張式(駐車ブレーキ)						
変速段数	主変速	前進	6段(ハンドル正位置時)　2段(ハンドル逆位置時)						
		後進	1段(ハンドル正位置時)　3段(ハンドル逆位置時)						
タイヤ			4.00−7	4.00−9					
車軸形状（径 mm）			六角(対辺31)						
PTO軸回転数 (rpm)			922						

■走行速度・車軸回転数一覧表

ハンドル位置	変速		TA7		TA9・10・12	
			車軸回転数 (rpm)	走行速度（m/分） 4.00−7	車軸回転数 (rpm)	走行速度（m/分） 4.00−9
ハンドル正	前進	1	8.8	10.4	8.8	12.3
		2	12.5	14.8	12.5	17.4
		3	16.4	19.4	16.4	22.8
		4	51.2	60.5	51.2	71.1
		5	72.8	86.4	72.8	101.0
		6	95.2	113.0	95.2	132.0
	後進	1	9.0	10.6	9.0	12.5
ハンドル逆	前進	1	9.0	10.6	9.0	12.5
		2	52.4	61.9	52.4	72.8
	後進	1	8.8	10.4	8.8	12.3
		2	12.5	14.8	12.5	17.4
		3	16.4	19.4	16.4	22.8

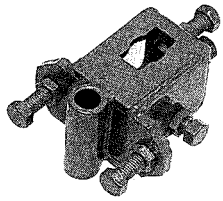
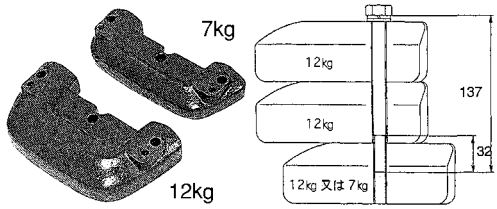
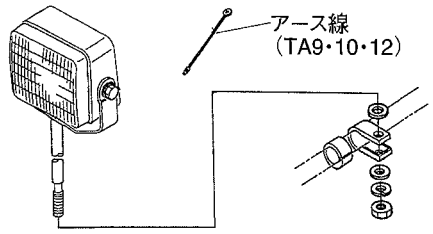
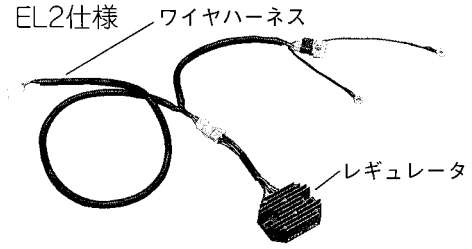
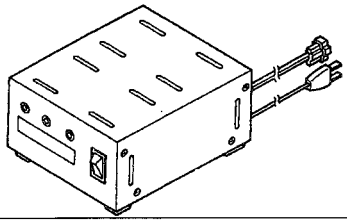
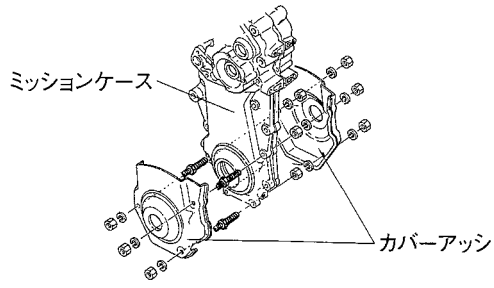
■標準付属品

品　　名	数 量 ／ 台	備 考
レンチ（14−21）	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	
ボルト（M10×16）	1	

■主な消耗部品一覧表

品　番	品　名	個数	適用機種					
			TA7	TA9		TA10		TA12
					セル		セル	
KK111−6221−0	Vベルト（B−45）	2	○					
KK121−6221−0	Vベルト（B−48）	2		○	○	○	○	
KK141−6221−0	Vベルト（B−47）	2						○
KK121−4216−0	ケーブル（主クラッチ）	1	○	○	○	○	○	○
KK121−4212−0	ケーブル（スロットル）	1	○	○	○	○	○	
KK141−4212−0	ケーブル（スロットル）	1						○
KK121−4292−0	ケーブル（サイドクラッチ1）	2	○	○	○	○	○	○
62901−4296−0	ケーブル（サイドクラッチ2）長さ212	1	○	○	○	○	○	○
62901−4297−0	ケーブル（サイドクラッチ3）長さ207	1	○	○	○	○	○	○
KK121−4301−0	ケーブル（ブレーキ）	1	○	○	○	○	○	○
09500−00003	オイルシール	2	○	○	○	○	○	○
62131−1732−0	ホイルチューブピン長さ66 mm	2	○	○	○	○	○	○
63733−1727−0	ホイルチューブピン長さ78 mm	2	○	○	○	○	○	○
62131−1729−0	バネピン	4	○	○	○	○	○	○
62851−5541−2	バッテリアッシ（YTX9−BS）セル付	1			○		○	
09662−60090	フューエルチューブ	1	○					
09662−60100	フューエルチューブ	1		○	○	○	○	
09662−60180	フューエルチューブ	1						○
09664−60110	フューエルチューブ	1						○
13901−6771−2	スパークプラグ	1	○	○	○	○	○	
E6101−6771−1	スパークプラグ	1						○
12643−1130−0	エアクリーナパッキン	1	○					
12623−1131−0	エアクリーナパッキン	1		○	○	○	○	○
EG424−1108−0	エアクリーナエレメント	1	○					
EG444−1108−0	エアクリーナエレメント	1		○	○	○	○	○
E3131−4316−0	フイルタ	1	○					
12454−4316−0	フイルタエレメント	1		○	○	○	○	
12866−4316−0	フイルタエレメント	1						○
48100−5589−0	ヒューズ（20A）（セル付，P仕様）	1		○P	○	○P	○	○P
E3133−6109−0	ロープ，アッシ（スタータ）	1	○					
12742−6109−0	ロープ，アッシ	1		○	○	○	○	
12004−6109−0	ロープ，アッシ	1						○

■オプション部品

品番	品名	適用機種 TA 7	9	10	12	備考
62901-6603-0	ユニバーサルヒッチアッシ	●	●	●	●	ヒッチピン付 
KK216-8340-0	ウエイトアッシ(7)	●	●	●	●	ウエイトアッシはボルト付 
KK226-8440-0	ウエイトアッシ(12)	●	●	●	●	
KK121-8311-0	ボルトアッシ (ウエイト3段用)	●	●	●	●	
62901-8301-0	ランプアッシ	●				L，L2仕様 
62921-8301-0	ランプアッシ		●	●	●	
KK123-5510-0	ワイヤハーネスアッシ (充電)		●	●	●	L2，EL2仕様 
KK251-5560-0	充電器アッシ		●	●		E仕様，YTX9-BSバッテリ用 
62901-8370-0	カバーアッシ	●	●	●	●	
62901-6604-0	ウエイトアッシ	●	●	●	●	12 kg+8 kgヒッチピン入り	T1シリーズ タイプ (赤色1号)
62547-8152-0	バランスウエイト1	●	●	●	●	12 kg単体	
62824-5311-0	バランスウエイト2	●	●	●	●	8 kg単体	

8. トラブルと処置

■エンジンが始動しないとき

原　因	処　置
●始動の手順が間違っている	➡ 正しい順序で始動する。(8ページ参照)
●タンクにガソリンを入れたまま1ヵ月以上保管しガソリンが腐った。	➡ タンク・キャブレター内の腐ったガソリンを排出し，新しいガソリンを入れる。
●フィルタポットに水やゴミが混入している。	➡ ポットを外してフィルタエレメントを清掃する。または新しい物と交換する。キャブレター内のガソリンも排出する。
●チョークを引いた(閉じた)状態でリコイルを何回も引過ぎガソリンを吸いすぎた。	➡ チョークを戻し(開き)リコイルを引くか，点火プラグを外して乾燥させる。
●エンジン停止後，燃料コックを閉じないで本機を前に倒したり，車両で運搬したためキャブレターがオーバフローした。	➡ クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。
●エアークリーナエレメントが目詰まりしている。	➡ エレメントを外して清掃する。または新しい物と交換する。
●点火プラグの火花が弱い，飛ばない。	➡ 点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または，新しい物と交換する。

■エンジンの回転が上がらない，不安定，出力が不足するとき

原　因	処　置
●エンジンが暖まってもチョークを引いた(閉じる)まま運転している。	➡ チョークを戻す(開く)。
●フィルタポットに水やゴミが混入している。	➡ ポットを外して清掃する。キャブレター内のガソリンも排出する。
●エアークリーナエレメントが汚れている。	➡ エレメントを外して清掃する。
●アクセルケーブルの引張りが不足している。	➡ ケーブルのセット位置を調節する。

■エンジンが振れる，異音が発生する

原　因	処　置
●エンジン取付けボルトがゆるんでいる。	➡ 取付けボルトを締付ける。

■ハンドルのガタが多い

原　因	処　置
●ハンドル回動部のガタが多い。	➡ ハンドルセットボルトを締直す。固定用ボルトでハンドルを締付ける。(ハンドルは中央位置のみ)

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは，購入先にご相談ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	白山市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部：電(0859)39-3181	〒689-3547	米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１
本社営業技術部：電(072)241-8092	〒590-0823	堺市石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

LEMA
陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

品番　KK121-6621-2

Kubota